

第3回荒川区基本構想審議会 次第

日時：令和8年5月25日（月）18時30分～20時30分

会場：サンパール荒川 小ホール

- 1 開会
- 2 小委員会のまとめ
- 3 荒川区基本構想の答申案
 - （1）政策体系の修正案
 - （2）荒川区基本構想の答申案
- 4 荒川区基本構想の将来像案
- 5 今後のスケジュール
- 6 閉会

【資料】

- ・ 資料1 小委員会のまとめ
- ・ 資料2 政策体系修正案
- ・ 資料3 荒川区基本構想答申案（概要版）
- ・ 資料4 荒川区基本構想答申案
- ・ 資料5 荒川区基本構想の将来像案
- ・ 資料6 今後のスケジュール
- ・ 資料7 追加意見シート
- ・ （参考1）審議会・小委員会での検討対応表
- ・ （参考2）荒川区人口推計報告書（時点更新）

第 1 小委員会のまとめ

第 1 回：令和 8 年 3 月 1 2 日(木)

第 2 回：令和 8 年 4 月 2 0 日(月)

【文化・芸術】

2040 年の望ましい姿	望ましい姿を達成するための取組	基本目標に盛り込むべきキーワード
・ 誰もが文化芸術に触れ関わる ことができるまち（無関心層を含めて どう広げていくか、障がいの有 無、年齢、経済状況にかかわらず 関われる） ・ 日常の中で文化芸術に触れ関わる ことができるまち	・ 駅前・公園・商店街（区民の生活導線）に文化芸術を組み込んでいく。	・ 街の価値そのものの力を底上げ （他自治体との差別化） ・ 社会課題への横断的効果（福祉 や教育だけでは解決できない） ・ 地域のアイデンティティの形成 ・ 次世代への文化・芸術の継承 ・ 地域文化の発掘・継承 ・ 地域文化および芸術活動を通じ たコミュニティ形成 ・ 地域文化および芸術活動を通じ た地域活性化 ・ 地域文化および芸術活動を通じ た観光活性化
・ 次世代に文化・芸術をつないでい けるまち ・ 日本人の伝統（礼儀正しさ）の継 承	・ 子どもたちが伝統・文化に関わるき っかけをつくる取組（習い事の時間 が合わない、経済的な制約があるこ とを踏まえた対応が必要）。 ・ 子ども会・青年会の活動、学校教 育の場での実践。	
・ 荒川区の伝統的なお祭りの継承・ 発展	・ 地域住民と一緒にしてお祭りを盛 り上げる。 ・ 地域の伝統的な祭りやそれを支え る神社、祭囃子の継承。 ・ 「天王祭」の魅力について通年で デジタルにより情報を発信する。（観 光活性化もつながる）。 ・ 中央区の取り組みを参考に、神輿 蔵を見える化。	
・ 地に足のついた多文化共生社会	・ ポップカルチャー、外国人の文化 の発表する場の創出。	
・ 文化芸術が、世代を超えた出会い と対話を生む「日常の接点」にな っている ・ 伝統工芸の技と物語が、若い世代 の手で次の形に継承されている。 ・ 区民自身が「このまちの文化」を 誇りを持って語れる状態になって いる	・ 体験型・共創型の参加の入口を増 やす（伝統技術展の満足度 86%を 活かす）。 ・ 伝統文化の継承を「体験→学び→ 担い手」の流れで再設計。 ・ 文化芸術について、産業・にぎ わい・区民参画と横断させる設計 を前提とする。	

・ 文化が地域全体の力になる	・ 文化・芸術活動を「単なる活動」にとどめずに、地域課題解決やまちづくり（コミュニティ形成、地域活性化、観光活性化）に寄与するような取組を展開する。 ・ 文化芸術を、人と人をつなぐ「素材」として位置づけ、施策を並べる前に、この素材がどう他分野に編み込まれるかを先に設計する。	
--	--	--

【産業】

2040 年の望ましい姿	望ましい姿を達成するための取組	基本目標に盛り込むべきキーワード
社会の変化に応じた新たな産業が生まれ、これまで地域を支えてきた産業と融合して、魅力ある地域経済が育まれ活力のあるまち	- 荒川区の強い産業（製造・小売・建設業）の振興、新産業の創出、既存産業との融和。 - 荒川ブランドの創出及び認知の向上。 - 機械化・デジタル化の推進（区による後押し）、フィジカル AI 等、荒川区のモノづくりの強みを活かせる産業の振興。 - 世界も視野に入れた販路開拓（区による後押し）。 - 産官学の連携によるスタートアップエコシステムの構築。 - 働き方改革を含めた新たな産業の創出。	- これまでの産業と新たな産業の融合 - 立地特性のポテンシャルを活かした産業振興
経営者が地域を支え続けられる地域	- 区内の事業者の維持・増加のため、業種を問わない創業支援施設の開設。 - 事業者に対する各種支援策、補助金の充実。 - 経営者交流促進の支援。	
次の世代が楽しみながら産業を引き継いでいる環境があるまち	- 伝統技術を持っている熟練の方々と、新しい発想を持っている若者をつなげていく。 - 区内の区立小・中学校における「地元産業」の体験学習の実施。	
荒川区でこそ起業したくなる環境が整っているまち	- 資金（エクイティ）供給の充実。 - 採用上の魅力向上（荒川区住職近接が魅力）。 - 取引先からのイメージ向上（与信判断にも影響。創業地としてのブランド戦略）。	
世界に繋がる企業の誘致が出来ているまち	- 研究学園都市、政治・行政の中心地、国際空港、商業地のいずれにも近い立地の優位性を活かした、世界に繋がる企業の誘致。 - 観光だけでなく、企業誘致としての荒川区の世界に向けた発信。	
立地ポテンシャルを活かした産業振興が実現しているまち	- 南千住の JR 貨物の土地の活用や、国際空港との近接性を活かした世界への輸出、高級ホテルの建設等を通じた富裕層の呼び込み。 - 都電を活用した地域産業の交流促進（都電沿線産業フェスなど、都電沿線の地元産業を核とした消費向上策・交流人口向上策）。	

• 次の世代が、荒川区の産業を「楽しそう」「関わりたい」と思える状態になっている。 • 承継と創業が一体化し、小さくても強い事業者が技術・物語・地域性で選ばれている。 • 商店街が「買い物の場」から「地域のつながりの拠点」に変わっている	• 子ども・若者が産業の現場に触れられる機会を増やす（見学・体験・インターン）。 • 承継と創業を一体で支え、「迎える人」と「始める人」が自然に出会う場をつくる。 • 小規模事業者の発信を伴走型で支え、「人の物語」として若い世代に届く形に育てる。	
--	---	--

【地域のにぎわい】

2040 年の望ましい姿	望ましい姿を達成するための取組	基本目標に盛り込むべきキーワード
- 文化・芸術、既存産業と新産業を大切に地域を魅力維持するまち - 区民の生活を中心に据え、上辺だけではない本物の魅力・地域の賑わいを創り上げる	- 史跡、公園、人文資源（松尾芭蕉ゆかりの地）、商店街、銭湯、都電などの魅力を大切にしていく。 - 区民の参加で商店街の振興や緑地増加に取り組む。 - 日暮里繊維街でのファッションイベントの再興。 - 海外への発信回遊性を高めるスタンプラリーの継続。 - リアル・バーチャルの双方での情報発信の継続。 - 下町のおせっかい（丁寧な接遇）の良さを守る。 - 商店街のイベント支援・イベント企画支援 「天王祭」の通年での魅力情報発信。	- 住民中心 - 上辺だけでない本物の魅力 - 立地特性を生かした観光施策の実施
老若男女が趣味や仕事のように楽しみながら地域に関わっているまち	- 子どもの権利条例の下、若者が当事者意識を持ってまちづくりに関わる意義の検討。 - 予算を確保した上で若者の意見を聞き、施策として実現する。 - 若者が企画し、若者が主体的に行うイベントやまちづくりへのバックアップ。	
単なる通過点ではなく、区内滞在時間が長いまち	- 旅行客に来てもらい、消費してもらい、また来たいと思ってもらえるような取組。 - 来訪客の周遊拠点施設（ホテル）の日暮里への誘致・整備を行い、区内での消費を促進する。 1か所だけでなく、数か所を回ること満足度を高めることで周遊性を高めていく。 - 象徴的な観光地を創ることで、そこを目指して来訪してもらう。 - 回遊性を高める具体策として、「核（集客性の高い拠点エリア）」と「圏域（拠点エリアから徒歩で訪問できる複数の魅力エリア）」のネットワーク化というまちづくり戦略の展開。 - CRM（Customer Relationship Management：顧客情報管理）を行い、来訪客の属性に応じて訴求する。 - 観光サイトや鉄道事業者と連携して、来訪客の分析。 - 分析結果を踏まえたニーズに合った広報の実施。	

• 荒川区らしい日常に、人が自然に引きつけられるまち • 都電・商店街・繊維街・川・文化施設をつなぐ回遊が、日常の光景になっている • 来場者数ではなく、地域への還元と関わりの密度で、にぎわいが測られている	• 地域資源を「一つの体験」として編み直すストーリー設計を行う。 • 交通利便性の高さを「通過」ではなく「滞在」と「出会い」に変える仕掛けをつくる。 • にぎわいの成果を、滞在時間・地域消費・リピート率・関わりの数で評価する。	
• 適切な規模の持続可能な町会	• 近隣同士の町会合併が住民にとって有益であることを役所が先導して広報する。 • 町会を 3,000～5,000 世帯、5,000～10,000 人、年間予算 1,000 万円程度の規模に再編する。	

【区民参画・協働・シティプロモーション】

2040 年の望ましい姿	望ましい姿を達成するための取組	基本目標に盛り込むべきキーワード
- 行政と民間、区民が連携して課題解決に取り組んでいる - 住民自らが情報発信者となり、楽しみながら地域に関わっている	我がまちに貢献したいという住民の活動をリアル・デジタルツールを組み合わせる後押しする。	- 町会 - 土地の有効活用 - デジタルツールの活用 - ブランディング - 下町風情 - 人と人とのつながり 「共感型」の情報発信
町会を中心に地域でつながりが生まれている	- 小規模自治会同士の合併・連携。 - 退職後の男性を対象とした地域とのつながり形成（囲碁、将棋、麻雀を行うクラブ活動の実施など）。	
区内の土地が有効に活用されている	- 公園に人を呼び込むような仕掛け（花を整備、官民連携の下で民間が案内）。 - 荒川区庁舎の建て替え後の土地の有効活用。	
区民が区政を身近に感じている	- SNS などのデジタルツールの活用。 - インターネット上で区民が行政に対して提案できるシステムの導入。 - デジタルツールとリアルなツールを組み合わせた取組。	
区内区立小中学校における児童・生徒がまちづくり活動に参加している	- 荒川防災まちづくりとして、「火の用心」の参加 - コミュニティ形成のための祭礼参加および祭礼の理解を深める学習	
荒川区のブランディング	- 宣伝力の向上（繊維街、祭り、神輿を活用）。 - 映画・テレビのロケ地としての積極アピールと地元ロケ地紹介。 - 地域ごと（区内 8 地域ブロック）の文化・観光資源の発掘と情報発信（地域ごとのシビックプライドを醸成する）。 - Youtube などによる「あらかわちゃんねる（区内の情報発信番組）」の創設。 - 日常の下町風情（観光地や大都市部には無い、情緒ゆたかな区内の暮らしの風景）の発信。	

• 多様な人が、それぞれに合った入口で無理なく地域に関わっている。 • 区民の声が見える形で施策に活き、「出したら変わる」実感がある。 • 区民自身が楽しみながら地域に関わり、誇りを持って暮らしている姿が、最強の発信になっている。	• 小さく参加できる入口を複数用意する（イベント・オンライン・まち歩き等）。 • 発信を「お知らせ型」から「共感型」へ変え、人・物語・変化を伝える。 • 「住みやすい」「下町」「ふれあい」を「人と人のつながり」で統合したメッセージをつくる。	
• 区民自身が楽しみながら地域に関わり、誇りを持って暮らしている。	• 4つの課題（文化芸術・産業・にぎわい・シティプロモーション）を、別々の施策として積み上げるのではなく、「人と人とのつながり」を軸に設計する。	

【防災】

2040 年の望ましい姿	望ましい姿を達成するための取組	基本目標に盛り込むべきキーワード
・ 火災・地震・水害に強い	・ 木造密集地域を解消する。ただし、木造密集地域の文化的魅力を維持することも考慮し、耐震化・耐火化により災害に強い木造密集地域を打ち出すことも選択肢である。 ・ 不燃領域率を向上させる。 ・ 緊急車両が通行可能で、延焼を防止する広い道路を増やす。 ・ 地域コミュニティを充実させ、地域防災力を強化する。 ・ 発災後・被災後の復旧力・回復力を強化する。 ・ 毎年度、防災基盤を整備する。 ・ 発災時の災害廃棄物の受け入れ場所や処理のための重機を確保する。 ・ 応援物資の受け入れ場所と配布場所を一方通行で行う。	・ 木造密集地域 ・ 不燃領域率 ・ 地域コミュニティ・地域防災力 ・ 地域の人が地域で守る ・ 町会 ・ 地域での横断的な連携 ・ 木造密集地域 ・ 不燃領域率 ・ 地域コミュニティ・地域防災力 ・ 地域の人が地域で守る
・ 地域防災力・共助の仕組みが保たれている	・ 地域コミュニティを充実させ、お互いが顔見知りとなり、災害時にも助け合える関係にする。 ・ 町会による町内でのイベントや防災訓練、花火大会を通じてコミュニティを維持する。 ・ タワーマンションの建設によるジェントリフィケーション（まちの変化）と並行して住民が集まる理由が薄まるなかで、住民が集まることに新たな意義や目的を見出す。 ・ 区民の防災意識を向上する。	・ 町会 ・ 地域での横断的な連携
・ 区内のコミュニティに関わりがない人も助けられる	・ 区民以外の区内滞在者にも、一時滞在施設の場所など発災時に必要な情報について、適切に提供する。	
・ 人の距離の近さと、地域に根ざした情報のつながりが、荒川区の防災力になっている	・ 町会・商店街・学校・福祉・行政の連携を、地区ごとに見える形で整理する ・ 地域ラジオを核に、区民が日常的に地域情報を受け取れる仕組みをつくる ・ 防災情報だけでなく、教育、防犯、環境、地域活動も横断して発信する ・ 情報と関係性の両方が循環することで、災害時に強い地域を育てる	

【防犯・区民生活の安全】

2040 年の望ましい姿	望ましい姿を達成するための取組	基本目標に盛り込むべきキーワード
地域コミュニティが充実している	- 高齢化や人材不足で機能しなくなった町会を、一定規模（1,500-2,000 世帯）以上にまとめていく。 - マンションも含めて、向こう三軒両隣を復活させる。 - マンション借入住民の動向を把握する。 - 住民登録していない人にも対応する。 - 荒川のルールを作り外国人に指導する。	- 地域コミュニティ・町会の充実 - マンション住民への対応 - 自転車の安全な利用 - 孤立・情報弱者
若年層の犯罪被害・加害がない	高齢者には音声や地域のつながりで、若者には SNS や動画で届くよう、伝え方を世代ごとに変える。	
誰もが安心して自転車で移動できる	- 街中の死角を減らし、キックボードなど新たなモビリティも考慮したまちづくりを進める。 - 自転車専用通行帯の整備など道路環境の改善を進める。	
孤立や情報弱者を生まない地域が形成されている	- 国の対応も見ながら、区として対応できる部分に取り組んでいく。 「知らなかった」「判断できなかった」を減らすため、情報弱者を生まない発信体制を整える。	
人の距離の近さと、地域に根ざした情報のつながりが、荒川区の防犯力・生活安全力になっている	- 特殊詐欺、SNS 型犯罪、消費者トラブル、自転車事故などを、具体例ベースで伝える啓発を強化する。 - 地域ラジオを、防犯・消費生活・交通安全の共通の情報基盤として育てる - 町会・商店街・学校・福祉・警察・行政が連携した地域見守りネットワークを強化する。 - 警察と消防の協働を続ける。 - 防犯カメラを充実させる。	
犯罪の変化にも対応できている	サイバー犯罪にも対応する。	

【住環境】

2040 年の望ましい姿	望ましい姿を達成するための取組	基本目標に盛り込むべきキーワード
マンションの老朽化対策が進んでいる	- 管理組合や管理会社が長期的な計画のもとで維持保全を担う。 - タワーマンションの投機目的での購入により困難化するマンション維持管理における合意形成を支援する。	- 区民の高齢化とマンションの老朽化という二つの古い - コミュニティの希薄化 - 遊び場の減少 - あらゆる世代が集える場 - 景観
高齢者やその家族が安心して住み続けられる住まいが確保されているまち	- 独居高齢者が増える中で、そうした方々が地域コミュニティと積極的に関わりを持てるよう、コーポラティブハウス等の仕組みをまちづくりの中で積極的に取り入れる。 - 家賃高騰下でも子どもや孫が住み続けられるように支援する。 - 障がいを持つ方でも住みやすい住宅を確保できるように支援する。 - アフォーダブル住宅のような、住宅を確保できない人への支援策を実施する。	
老朽マンションの安全対策が進んでいるまち	分譲と賃貸で課題が異なるため、それぞれに応じた施策を検討する。特に賃貸住宅では、住民が根付いていないため、一層の工夫をする。	
地域全体でコミュニティが形成されている	- 特に既存住民と新住民との関係が希薄になりがちな新しい開発地域で、両者の間のコミュニティの育み方を考える。 - マンション内コミュニティと町会・地域コミュニティの接点を増やす。 - 町会加入の阻害要因への規制。 - 町会風情を活かした景観を整備する。	
自然災害に対する避難方策が根付いている	垂直避難と在宅避難など新たな避難方法を住民に定着させるための啓発活動を行う。	
子どもの遊び場が適材適所に確保されている	都市公園だけでなく、法の縛りを超えてフレキシブルに子どもたちが使える公園を整備する。	
多様な世代の居場所が適材適所で確保されている	- 公園の整備や、図書館の整備、コミュニティ施設の計画的な配置・整備を行う。 - ゆいの森のような、子どもからお年寄りまでが集える場所を増やしていく。 - 男性が退職後も地域とのかかわりを持てるような仕組みや支援策を検討する。 - 住みやすさを、住宅性能だけでなく、孤立しない暮らしのしやすさで考える。	

荒川区らしさが適材適所で演出され、地域住民の荒川への誇りと愛着が醸成されている	地域特性や下町風情を生かした景観整備を実施する。具体的には、地域住民と行政が連携し、地域の特性や下町づくりを生かした荒川区らしさを啓発する景観まちづくりを実施する。例えば、防災に配慮した景観に着目した防災景観かるたの作成や、まち歩きマップに防災情報を盛り込むなど。	
ごみ捨てや町会費の支払いが適切に行われている	区で一定の規制を設ける。	
人のつながりが住みやすさにつながり、荒川区らしい、支え合いのある住環境ができている	- 福祉、子育て、見守り、住環境の課題を横断して考える体制をつくる。 - 地域ラジオなどで、地域の居場所や活動情報が区民に届く状態をつくる。	

【都市基盤】

2040 年の望ましい姿	望ましい姿を達成するための取組	基本目標に盛り込むべきキーワード
円滑な避難が可能であり、安全・安心かつ快適な道路環境が整備されている	道路基盤について、健康面への影響や文化的な価値を重視し、基盤整備の基準を柔軟に変えるなど、メリハリをつけた整備を行う。	- 災害リスクへの対応 - 道路の老朽化対策 - 移動空間の安全・安心及び快適性 - 持続可能な地域公共交通 - 快適な居住空間 - にぎわい空間の形成 - ユニバーサルデザイン - インクルーシブ
交通利便性が低い人がそれなりに移動できるまち	- 居住者のニーズに応じた公共交通政策を展開する。 - 高齢者や高密度居住地区においても地域公共交通が十分に整備されている。	
快適な居住空間とにぎわい空間が適材適所で形成されている		
円滑かつ利便性の高い交通環境や駐輪場が整備されている	自動運転の実用化も視野に入れ、対象を絞った対策や新たなモビリティサービスの導入など、柔軟な対応をする。	
災害リスクの高い地域や水害地域において、安全・安心な整備とソフト対策が講じられている	建物ストックの長寿命化を推進する。	
低利用地が有効に活用され、高齢者から若者世代までの居場所となるような空間が創出されている		
再開発地域において良好な住環境と新たなにぎわいが形成されている	- 再開発の中に、住居だけでなく働く場所もつくる。 - 空港や霞が関へのアクセスの良さを生かし、大企業本社を誘致する。	
荒川区らしさが適材適所で発揮され、地域住民の愛着が醸成される		

子どもも高齢者も、障がいのある方も、誰もが安全に移動でき、人と人が自然につながる都市基盤が整った荒川区になっている	- 歩行者・自転車・車・新しいモビリティが共存できる、安全でわかりやすい道路空間を整える 駅、生活道路、商店街、公共施設をつなぐバリアフリー動線を強化する - 地域ラジオを活用し、道路、交通、再開発、まちの変化を区民がわかりやすく知れるようにする - 都市基盤を、便利さだけでなく、人が安心して関われるまちの器として育てる	
---	--	--

【環境・みどり】

2040 年の望ましい姿	望ましい姿を達成するための取組	基本目標に盛り込むべきキーワード
区民や企業が無理なく取り組める形で、カーボンニュートラルの意識と行動が定着している	分かりにくいテーマについては、「人の暮らしやすさ」という観点から伝えていく	- カーボンニュートラル - サーキュラーエコノミー - ネイチャーポジティブ - ウェルビーイング
ごみの量が減少し、ポイ捨てや不法投棄がない	- 区自然を大切にするマインドを引き続き育てていく - 人工地盤による公園整備や壁面緑化など、様々な工夫によって緑地を確保する。	
人と自然、人と地域のつながりが深まり、荒川区らしい、やさしく心地よい環境が育っている	- 公園、広場、街路空間を、使いたくなる・立ち寄りたくなる場として整える - 花壇づくり、清掃、美化活動などに、子どもから高齢者まで関われる仕組みを増やす - 地域ラジオで、環境に関する身近な実践や工夫を共有する - 環境を「我慢」ではなく、暮らしをよくする行動として広げる - みどりを、孤立を防ぎ、暮らしの余白をつくる場として位置づける	
リチウムイオン電池による事故を防止できている	- リチウムイオン電池が原因となる火災について、国のルールの変化も見ながら、区民や行政、民間企業も対応していく。 - リチウムイオン電池の回収システムを構築する。	

【行政運営・DX】

2040 年の望ましい姿	望ましい姿を達成するための取組	基本目標に盛り込むべきキーワード
質の高い職員が確保され、一人ひとりの職員のパフォーマンスが最大化されている	- 人材マネジメントを徹底する。 - 意欲ある女性職員の活躍を支援する。 - 職員が一定の余裕とやりがいを持って取り組めるように環境を整備する。 「人を大切にする」という視点を今後の区政運営に盛り込む。	- QOL - 人を大切にする - プッシュ型の情報・サービス提供 - 住民の理解・協力 - 働きやすい環境づくり、やりがい
区民が行政の必要性を理解し協力している	- プッシュ型で情報やサービスを提供するなどの工夫をする。 - 工数の削減による負担軽減が、区民サービスの向上や区民の QOL 向上といった形で区民に還元されることを示す。 - 予算に対する区民への還元を定量的に把握し、成果を区民に見えるようにする。 - 行政が直面している苦労や課題を民間にも理解してもらうために、行政内の横断的な連携・情報共有を強化する。	
持続的な財政運営がなされている	財政の健全化、健全な財政運営の視点を進める。	
質の高い区民サービスが提供されている	DX に際して、人員削減を進めるのではなく、職員の職務環境を改善し、働きやすい環境づくりと区民対応力の強化を両立する。	
人のつながりを支える仕組みとして、行政運営と DX が機能し、荒川区らしい、顔の見える行政が実現している	- 民間、地域団体、若い担い手とも連携し、行政だけで抱え込まない仕組みをつくる。 - 地域ラジオを核に、防災、教育、福祉、環境などを横断して区民に情報を届ける。 - 若い世代も参加しやすい意見交換や情報共有の場を増やす。 - 若い担い手や地域プレイヤーが、情報整理や発信、橋渡し役として関われる余地をつくる。 - 各部門の課題を横断して把握し、区全体としてつながった行政運営を進め、区民に知ってもらう。	

第 2 小委員会のまとめ

第 1 回：令和 8 年 3 月 1 9 日(木)

第 2 回：令和 8 年 4 月 1 0 日(金)

【子育て】

2040 年の望ましい姿	望ましい姿を達成するための取組	基本目標に盛り込むべきキーワード
- 子どもには幸せの芽が育つ社会、こころ弾む子育て、共働で感動できる社会 - 子どもたちが興味関心を持ち、「考動」(考えて動く)できるような「元気の芽が育つ」環境 - 子どもたちが興味関心から夢中になって「行動」できるような「勇気の芽が育つ」環境 - 最終的に「幸動」(幸せが動く)につながる環境	- 親子で運動をする。 - 継続的なイベントの開催。 - 感覚的で豊かな知識を獲得するため、伝統芸能との接触機会を設ける。 - 育児不安の解消(子育て経験者による、ふれあい館を活用した料理教室/等)。 - 子育てきっかけ講座の実施(子育て経験者に、肩の力を抜けるようなほっとする一言をかけてもらえる場づくり/等)。 - ふれあい館の活用方法の見直し(開館時間と閉館時間の見直し/等)。 「障がい者」「健常者」というカテゴリにとらわれず、一人ひとりに必要な後押しやサポートの在り方を理解し、地域の輪を強化する。	- 子育てにやさしい街づくり - ライフステージを通じた支援体制 - 子どもの権利 - ハウジングファースト - プレイパーク - こどもまんなか - 第三の居場所
子どもの権利を最大限尊重する	困難を抱えた子どもへの伴走型支援	
- 街中に多くの子どもの居場所がある - 子どもにやさしいまち	- 子育てしやすい住環境の整備 - 子どもたちが安心して遊びに没頭できる施設の整備(常設のプレイパーク、清潔感のある公園/等)	
働きながら子育てできるまち	子育て世帯への就労支援。	
データと現場の声をリアルタイムで把握し、分析できるまち	- 児童福祉に関わる専門家(子ども家庭センター職員、保健所側隠、スクールソーシャルワーカー/等)の待遇の改善(賃金や雇用形態の見直し/等)。 - データと事情の折り合いをつけた施策の検討。	
柔軟で機動力のある制度設計	- 多様な人材による地域包括支援体制の構築。 - 縦の行政、横の民間、斜めの市民という三者を多層的に捉えた、多重支援の提供。	

・ 子育てしたいと思えるまち	・ 自分自身の困りごとに応じて相談場所が見えるような広報	
・ 住むことで自分自身も明るくなれる、子どもも親も笑顔なまち	・ 親の心に寄り添う取組（PTA への参画による、ママ友・パパ友の形成、支援にアクセスするための情報の周知 / 等）の充実。 ・ 講座等にて、「荒川区に住むと自分自身も明るくなれる」というメッセージを入れる。	
・ 子どもを支える人が、荒川区全体に支えてもらっている実感を持てるまち	・	

【教育】

2040 年の望ましい姿	望ましい姿を達成するための取組	基本目標に盛り込むべきキーワード
一人ひとりの個性や多様性を認め、個人に寄り添った教育をする	- 教職員を十分数確保し、学校現場を持続可能にする。 - 課題の優先順位を検討し、メリハリをつけて施策を行う。 - 希望者全員が個別に学ぶことができる通級制度の拡大。 - マルトリートメント（不適切な教育）の防止。 - 援助職（福祉専門の管理職／等）の充実。	- 多様性 - 個性や多様性を認める - 個人に寄り添った教育 - インクルーシブ - ありがとう - 学びの多様化学校 - 当事者性を育む - 主役
- ありがとうという言葉が飛び交うまち - ありがとうで心を温め合うまち	- 区内の取組（こころの健康観察アプリ「ニコニコチェック」／等）や好事例（第一中学校におけるインフルエンザの早期対策、受験生を安心させる工夫を凝らしたアンケートの実施と保護者への結果共有／等）を周知・広報する。 - 区や学校職員等に感謝を伝えるイベント等の実施。 - ありがとうイベント（電子掲示板や区報ジュニア版を読む）	
教職員が働きたいまち	- DCS モデルの枠組みに沿って、教職員の要求水準を下げ、自由度を高め、サポートを高めるような取組を実施する（教職員が相談できる夜間窓口の設置、担任を複数人で分担する、授業数の削減／等）。 - 学校運営協議会制度に基づく実効性のある取組による、学校現場の負担軽減。 - 学校運営協議会という公的なつながりによる、学校をゆるやかに応援する関わりが持てる体制の構築。	
普通教室で多様な学びが叶う	- 通常の学級で行えることを増やし、一次的援助サービス（安全安心な教室）を叶える。 - 中央区の特認校制度を参考とした取組。	
人権を土台とした多様な学び	- 知識を組み合わせる行動に繋げ、子どもたちが勉強の面白さを体験できる教育（STEAM 教育、アントレプレナー教育／等）を提供する。 - 特色のあるカリキュラムマネジメント（渋谷区の午後探求「シブヤ未来科」のような取組／等）。 - 教職員が本来の職務に専念できる環境づくり。 - 校則の意義を生徒主体で考え、対話の機会を設ける。	

• 誰もが主役になれるまち	• どんな人でも主役になれる、一緒に学んでいくための施策の検討。	
• いじめに厳しいまち	• 校長の影響力を生かしたいじめの予防。	
• 誰も取り残さない教育	• 公立学校以外も含めた全ての子どもたちと子育て世帯を支援する施策の実施。 • 成育条件によらず、すべての子どもが十分な教育を受けられるような施策の検討。	

【若者】

2040 年の望ましい姿	望ましい姿を達成するための取組	基本目標に盛り込むべきキーワード
課題に寄り添うまち	- 若者相談「わっか」の充実。 - 引きこもりの若者にとって比較的抵抗感の少ないチャネル（オンライン、VR / 等）にて支援を提供する。 - 多様な就労を支える仕組みづくり。	- 移行期支援 - ユースセンター - 社会的孤立 - 多世代 - 地域への愛着
若者の声が形になるまち	- 子どもの権利条例の下、若者が当事者意識を持ってまちづくりに関わる意義を検討する。 - 予算を確保した上で若者の意見を聞き、施策として実現する。 - 若者が企画し、若者が主体的に行うイベントやまちづくりへのバックアップ。	
様々な経験・体験ができるまち	様々な施設における、スポーツや文化・芸術、学習、地域ボランティア等を体験できるネットワークの構築。	
日々の楽しみが見つけれられるまち	大規模な公園、公共施設等の整備を一体的に捉え、その場でできる体験を整理し、バランスよく配置する等のハード面での環境整備。	
社会的孤立を生まない、豊かな繋がりを実感できるまち	- 各世代の若者向けの常設の居場所（サードプレイス、ユースセンター、図書館 / 等）の確保 18～30 歳程度の若者が利用できるシェルター機能のある施設の整備（若者版の子ども家庭総合センター / 等）。 - 移行期の引継ぎの拡充（移行期に特化した部門の設置 / 等）。 - 若者向けの商業施設（映画館、ゲームセンター / 等）の設置。	
下町起業の聖地あらかわ	荒川区ならではの人のつながりを生かした小規模な起業の支援・促進（古民家運営 / 等）。	
- 人生の始まり期を応援するまち - チャンスにあふれたまち	- 人生の始まり期を 25 歳程度と捉え、若者が事業を提案できるような仕組みをつくる（若者にも積極的に参加してもらえるような「事業提案制度」の設置 / 等）。 10～20 代の若者の基本構想審議会への参加。	
若者が地域活動に参加するまち	若者に参加してもらうことによる新たな視点の獲得を目的とした、青少年地区委員会や青少年委員会等の体制の見直し。	

	・ 将来的な町会活動へのゲートウェイ機能となることを見据えた、イベント等における中高生ボランティア参加促進（謝金の支払い／等）。	
・ 世代を超えた共創のまち	・ 若者の意見を受け止め、反映する体制の構築。 ・ 世代を超えて議論する「多世代会議」の実施。	
・ 若者の思いが実現する、大人の懐の深さがあるまち ・ 地域が若者を育て、若者が地域を育てる	・ 大人が誘導するのではなく、若者の生の声を聞き、希望を実現する仕組みづくり（予算を確保した上での「子ども会議」の実施／等）。	

【生涯学習・スポーツ】

2040 年の望ましい姿	望ましい姿を達成するための取組	基本目標に盛り込むべきキーワード
誰もが何歳になっても学び直せる、サポートを受けられるまち	- 高齢者だけでなく、就労世代等の時間的制約のある層でも学び直しができるような環境づくり。 - 学び直しやスポーツの取組の広報（イベント等の情報提供、学び直しを希望する人が足を運ぶことで情報が得られる場づくり／等）。 - 図書館の多様な活用方法の検討（子どもの居場所、学習支援、ビジネス支援／等）。 - キャリアチェンジに生かせる学習機会の提供。	- 冗長性 - レジリエンス
人とつながることで、自然と心も身体も整うまち	- 人と関わる中で自然とスポーツや学習をしているような環境づくり（地域イベントにおける動ける場づくり、子どもの運動に親を巻き込むようなきっかけづくり／等）。 - 知識はAIから得られることを前提とし、人と人との対話の中で心を育てるような学習機会を提供する（気軽に対面相談ができるような部課の設置、スポーツ経験者のチームサポーターとしての参加促進、特定分野の知識がある区民と区民の相談をマッチングするシステムの構築／等）。 - 学習と運動が相互に好影響を与えられるような場づくり（図書館とグラウンドの一体化／等）。	
生涯学習・スポーツをしたくなるまち	- 参加促進やまちのにぎわい創出を見据えた、区民の生活導線上での生涯学習・スポーツの取組の推進（屋外、ショッピングモール、商店街、駅／等）。 - AIによる個人に合わせた生涯学習プログラムのレコメンド提供。 - 対話やワークショップがしやすい環境設計。 - 歩かせる仕掛けづくり（歩数に応じて特典が得られる／等）。	
五感で読書を楽しめるまち	- 視覚以外で本を楽しめる取組の実施（図書館におけるオーディオブックの拡充、絵本の中の食べ物を給食に出す「読書給食」／等）。 - 家読のような、親子で共に読書を楽しめる取組に、味覚や聴覚を伴う工夫を凝らす。	

多様な場所で多様な体験ができるまち	- 多様な区民のニーズに応じた柔軟な場づくり（図書館に訪れた子どもへのおやつ提供／等）。 - 施設ごとに用途を区切らず、既存の施設を生かして各施設で多様な体験を可能にする。 - 多様な学習機会の提供（夜間中学／等）。	
地域ならではのスポーツが体験できる	- プロギング（ジョギングしながらゴミ拾いをする）など、荒川区の環境に合ったユニバーサルスポーツの推進。 - ゴミ箱の充実によるプロギングしやすい環境づくり	

【健康】

2040 年の望ましい姿	望ましい姿を達成するための取組	基本目標に盛り込むべきキーワード
・ 住んでいるとおのずと健康になる。 ・ 気が付くと健康になる。	・ ナッジを生かした取り組み（おすすめメニューが健康的であるなど）。 ・ 健康に関する正しい知識が自然と得られるような環境づくり。	・ おせっかい ・ ケアしあう ・ 関心を向けあう ・ 元気なまま生涯を終えられる ・ 地域に開かれた医療 ・ 社会的処方 ・ おのずと健康になる ・ 誰もが健康になれるまち ・ つながり
・ おせっかい（ケア）がある。	・ 他人に関心を向けるようになる。 ・ 多くの人と関わりあう（あいさつなど）	
・ 骨格・脳・臓器が健康である。	・ 子ども時代に栄養を与えて、筋骨格を育てる。 ・ 動く（遊ぶ）環境がある（体力向上、生活習慣病予防の観点）。	
・ 区民同士のつながりがある。	・ コミュニティナース（人が自然にあつまる場所で正しい知識が得られる、若い子が健康に関する知識を得る）ができる場所づくり。 ・ 暮らしの保健室（近所の人として、医療者に関われる） ・ オンライン、DX を生かしたつながりづくり ・ より多くの区民がつながりを持てる取り組み	
・ 運動、コミュニティ、食を上手に生かす。	・ 既存の取組を整理し、継続すべきものを続ける。 ・ 骨格・四肢を鍛え、神経系の発達を促進させるための運動（36 の運動、ラジオ体操 / 等）。	

【高齢・介護】

2040 年の望ましい姿	望ましい姿を達成するための取組	基本目標に盛り込むべきキーワード
長寿社会の進展をポジティブに受け入れられる社会	- 生涯現役で働きたい人への支援（柔軟な就労制度、シニアの技能・経験マッチング制度、企業へのシニア雇用インセンティブ／等） - 健康増進・介護予防（ウォーキング・運動拠点整備、フレイル予防プログラム、地域スポーツ・健康教室、食事・栄養支援の充実／等） - 長寿を楽しめる文化社会の醸成（生涯学習、文化芸術活動、旅行・観光支援、趣味コミュニティ／等）	- 長寿価値社会 - 共生型地域社会 - 地域完結ケア - 生涯現役社会 - ケア共創社会 - みんなでつくる長寿のまち - 年をかさねるほど豊かになるまち - 安心して歳を重ねられるまち - 人と人がつながるやさしいまち - いきがい - つながり - 尊厳ある暮らし - 支え合いの仕組み化 - 持続可能な介護社会 - 若いうちから介護に触れる - コミュニティケアラーの育成 - ずっと住み続けたいまち - 支え合いで育むまち - あんしん
- 住み慣れた自宅や地域で、人とつながりながら最期まで暮らせる社会 - 積極的に高齢者が社会参画できる荒川区	- バリアフリー改修の支援や高齢者賃貸入居支援など、住める家の確保。 - 在宅医療・介護の強化（24 時間対応の在宅医療、在宅看取りを支える医療連携拠点の整備／等） - 高齢者向けの施設等の整備。 - 孤立・孤独死を防ぐ地域コミュニティづくり（地域サロン、地域活動、世代間交流拠点／等）。 - 移動・買い物・生活支援（移動支援、移動スーパー、生活支援サービス、オンライン診療、行政手続きのデジタル化／等）。 - 社会参画のきっかけづくり（取組の周知、声掛け／等）	
認知症になっても、その人らしく感情豊かに笑顔でいられる社会	- 認知症の当事者が見守られる対象ではなく、地域の一員として暮らせるまちづくり（認知症フレンドリータウンの推進、認知症サポーターの拡充・ステップアップ、当事者参加型の地域活動／等）。 - 早期支援により進行を抑える（認知症検診の拡充、認知症初期集中支援チームの強化／等）。 - 本人の意思を尊重した生活設計（意思決定支援、成年後見制度の利用支援、財産管理・契約支援の充実／等）。	
高齢者を支える人を、社会で支える。真心だけに頼らない、無理ではなく仕組みで支える	- 介護サービス、訪問看護の充実、家族介護者への支援 - 介護人材の処遇改善やテクノロジーの活用 - 地域包括ケアシステムの強化、見守りネットワークの強化等	

・ 認知症になった方も家族も安心して暮らせる荒川区 ・ 介護・福祉人材が働きやすい荒川区	・ 介護サービス、訪問看護の充実、家族介護者への支援。 ・ 人材の確保・育成（介護人材の処遇改善、介護事業者と若者が一体となったコミュニティカフェの運営等／等） ・ 介護人材のやりがい依存の脱却（テクノロジーの活用／等）。 ・ 地域共助の仕組み化（地域包括ケアシステムの強化、見守りネットワーク、事業者と連係した生活見積み、地域ポイント・電子地域通貨による支え合い活動促進／等）。	
・ 互恵性のある	・ 互いに社会貢献をし合う仕組みづくり（多世代交流型アパートメント／等）。 ・ 保育・教育の中での、子どもと高齢者の交流機会の導入。 ・ ドイツの「多世代の家」のような多世代交流の場づくり。 ・ 世界のエイジフレンドリーシティとの連帯。	
・ 心の余裕がある	・ 小さい子と、高齢者（特養の方など）の交流の場づくり	
・ 国際連携	・ 多世代の家（ドイツ）のような、あらかわプロジェクト ・ 世界のエイジフレンドリーシティとの連帯	

【障がい・生活支援】

2040 年の望ましい姿	望ましい姿を達成するための取組	基本目標に盛り込むべきキーワード
• 全ての人が生きがいを持ち、社会参加できるまち	• 仕事や住まいを安定させる取組。 • 福祉就労と一般就労両者の意見を聞く計画相談支援事業所の人員不足対策。 • 空き家等を活用したアフォーダブルハウスの増設。 • 通所をサポートするヘルパーの確保・育成。 • 障がい者への理解促進（デイサービス等の施設に多様な区民が出入りできるような仕組みづくり、小学校における障がい者理解啓発、健常児と障がい児が同じ目線で共に理解を深める機会の創出／等）。 • 障がい者本人の意思を尊重した支援の拡充。 • 民生委員の情報を公開・周知する。 • 若者へ情報を届けるための若者版民生委員の仕組みづくり。 • 介護事業に関する制度等を周知する際のデザインの工夫（AI 技術等を活用したビジュアルライズ／等）	• 孤立しない • 周辺の人と関わる • 心のバリアフリー • 依存の価値観を変えていく • ユニバーサル
• 障がいの有無にかかわらず共に生きていけるまち	• 「障がい者をサポートする」のではなく、「障がい者が生活するのにふさわしい環境ができておらず、健常者へのケアに偏っているため、障がい者へのケアに重点を置く」という発想に転換した上で、障がい者へのケアを充実させる。 • 障がい者に合わせた基準づくり。	
• 障がいのある方にも優しいバリアフリーなまちづくり	• 世の中が「障がいがあるのは人ではなく社会の方だ」という考え方にシフトしていることを踏まえた施策の検討。 • 「障がいをもつ」ではなく、「障がいがある」と捉える。 • できない範囲のことは互いに依存しあいつつ、自分でできることを増やすための支援を充実させる。 • 相談を受けた後の、個別の伴走支援体制の整備。 • 相談員の働きやすい環境づくり。 • （早期に福祉から歩み寄ること（発達障害の5歳児健診／等）	
• 誰もが尊重されるまち	• 基本構想に基づいた施策の実行。	

【人権・平和・多様性・つながり】

2040 年の望ましい姿	望ましい姿を達成するための取組	基本目標に盛り込むべきキーワード
• 社会の全体最適に向け、自分らしさを発揮できるまち	• 今あるつながりをさらに深めることと、それに資する教育。 • 自分らしさを自分中心に捉えるのではなく、社会全体の最適化という視点を持ち、子どもたち一人ひとりが自分のできることを考え、大人がそれを支援する。 • 子どもの権利条例に係る取組の推進。	• 自分らしさ • 人と理解をしあう、知り合う
• つながりの広がるまち	• 町会に関する情報発信の強化（場所、入会方法、活動内容 / 等） • 既存の町会への参加促進と、新しい町会の認定。 • つながり創出の機会の後押し（荒川区版の地域起こし協力隊の設立、中心人物への謝金支払い / 等） • 若者の施設利用の促進（アプリでの予約を可能にする / 等）	
• 多様な文化に触れあえるまち	• 多文化共生の場となっている夜間中学等の取組の継続 • 多文化共生のまちづくりに向けた宣言の発出。 • 多文化に触れられるイベント等の実施（日暮里繊維街における衣をテーマとしたイベント / 等） • それぞれの国の文化を体験できる・ふれあえるまちづくり	
• 伝統とダイバーシティをみんなで考えるまち	• 知らぬうちに持っているアンコンシャスバイアス（無意識の思い込み）を認知し、見つめ直す機会づくり。 • 多様な人が参加できる、クリティカルシンキング（正解のない問いに対する納得解を探す）の機会づくり。 • 礼を持ったコミュニケーションによる伝統文化の変革。 • 人権問題解消に向けた相互理解の促進。	
• 守られ、保障されるまち	• 人権が侵害されたことを伝えられる場づくり。 • 属性に寄らず、全ての被害者を十分にケアする体制の整備（DV 被害に遭った男性の相談窓口、自殺対策 / 等）。 • 犯罪件数の増加を踏まえた加害者の更生・教育。	

【行政運営・DX】

2040 年の望ましい姿	望ましい姿を達成するための取組	基本目標に盛り込むべきキーワード
区を目指す姿と現状がわかりやすく示されている状態	- 適切な目標管理（PDCA 評価制度の導入 / 等）。 - 成果指標設定時の研究者等への意見聴取。 - 民間と連携して区民に行政のあり方を伝える。	- 住民満足度の向上 - 住民体験価値の向上 - 居住体験価値の向上 - AI のまち、あらかわ - 相互支援
健全な財政状況が保たれている状態	- 費用対効果を考慮した DX サービスの導入。 - 外部サービスの価格高騰を踏まえた専門性を有する職員の雇用。	
区民視点で行政サービスが向上している状態	- DX による業務効率化。 - デザイナーとの連携による、周知広報の工夫。	
行政運営に関わりたい人が、関われる行政	- 子ども、若者が行政運営に関われる仕組みづくり。 - 多様な人の議論の場づくりと、その運営を担う部門の設立。	
全ての職員がやりがいを持って働いている状態	- DX による業務効率化。 - 窓口やシステムについての理解の促し、区民から感謝の声が届くような仕組みをつくる。 - 働き方の選択の自由を確保する（業務量の増減を調節できるような労働環境の整備 / 等）。 - 近い距離感で区民と関われる仕組みづくり（窓口における丸テーブルの設置 / 等）。	
職員が常に業務の見直しや区民サービスの向上に努めている状態	職員の意識改革。	
未来ある AI のまち荒川	- 区の情報発信の一括化（予防接種のリマインド通知や、災害発生時等に個人に合わせた情報を発信するアプリの構築 / 等）。 - 申請が 24 時間できるシステムづくり	
職員・区民が互いに感謝し合えるまち	行政がサービスを一方的に提供するのではなく、区民がサービス・区の職員を応援し、相互に貢献する仕組みづくり。	

政策体系（修正案）

政策体系（修正案）

ARAKAWA CITY 2040
BASIC CONCEPT

基本目標	政策	
はぐくみ <u>将来にわたって</u> <u>「ひと」が育つまち</u>	子育て - すべての子どもが健やかに成長できる環境づくり -	生涯学習・スポーツ - 学びと健康を支える生涯学習・スポーツの推進 -
	教育 - 未来を担う子どもを育む質の高い教育 -	
	若者 - 若者が活躍できるまちの実現 -	
ささえあい <u>みんなが支え合い、生きが</u> <u>いをもって過ごせるまち</u>	健康 - 健康で安心して暮らせるまちの実現 -	障がい・生活支援 - 誰もがいきいきと笑顔で暮らすことができる環境づくり -
	高齢・介護 - いつまでも住み慣れた地域で自立した生活の実現 -	
にぎわい <u>人情・産業・文化が息づく</u> <u>にぎわいのまち</u>	文化・芸術 - 豊かな心を育む文化・芸術の推進 -	地域のにぎわい - にぎわいと魅力あふれる都市の形成 -
	産業 - 活力ある区内産業の振興 -	つながり - 多様な人々がつながり、地域を育むコミュニティの創造
やすらぎ <u>安全安心で</u> <u>快適に暮らせるまち</u>	防災 - 災害から区民を守る対策の推進 -	都市基盤 - 誰もが住みやすい都市環境の確保 -
	防犯・生活安全 - 安全で安心な区民生活の実現 -	住環境 - 安心して快適に住み続けられる住環境の整備 -
		環境・清掃 - 環境にやさしいまちづくりの推進 -

. . . .
 行財政運営
 区の魅力向上とシビックプライドの形成
 協働・共創の推進
 人権・平和・多様性の尊重

【参考】新たな政策体系（修正前）

基本目標（都市像）のタイトル「○○○」の部分は審議会での議論を踏まえ設定

基本目標（都市像）	政 策	
「○○○」 将来にわたって「ひと」が育つまち	子育て - すべての子どもが健やかに成長できる環境づくり - 教育 - 未来を担う子どもを育む質の高い教育 - 若者 - 若者が活躍できるまちの実現 -	生涯学習・スポーツ - 学びと健康を支える生涯学習・スポーツの推進 -
「○○○」 多様な価値観・自分らしさを 認め合い一人ひとりが輝くまち	健康 - 健康で安心して暮らせるまちの実現 - 高齢・介護 - いつまでも住み慣れた地域で自立した生活の実現 -	障害・生活支援 - 誰もがいきいきと笑顔で暮らすことができる環境づくり - 人権・平和・多様性・つながり - 個人が尊重され、認め合い、つながる地域社会の実現 -
「○○○」 人情・産業・文化が息づく にぎわいのまち	文化・芸術 - 豊かな心を育む文化・芸術の推進 - 地域のにぎわい - にぎわいと魅力あふれる都市の形成 -	産業 - 活力ある区内産業の振興 - 区民参画・協働・シティプロモーション - 多様な主体と連携した区民協働と魅力発信の推進 -
「○○○」 安全安心で快適に暮らせるまち	防災 - 災害から区民を守る対策の推進 - 都市基盤 - 誰もが住みやすい都市環境の確保 - 住環境 - 安心して住み続けられる住環境の整備 -	防犯・区民生活の安全 - 安全で安心な区民生活の実現 - 環境・みどり - やすらぎと潤いがあふれ環境にやさしいまちづくりの推進 -

荒川区基本構想答申案 (概要版)



幸せを紡ぎ、幸せを感じる

- ✓ 全ての区民が望む生き方を選択できる
- ✓ 一人ひとりが幸せを追求、実感できる

➡ 区民の幸福感を意識する

共に支え、共に育む

- ✓ 人と人とのあたたかいつながりを活かす
- ✓ あらゆる主体が連携・協働して支え合う

➡ 区民同士のつながりを意識する

未来につなぎ、未来を創る

- ✓ 区の宝である子どものためにも、明るい未来へ向けて、持続可能に発展し続ける

➡ 区の持続可能な発展を意識する

審議会・小委員会での主なご意見（キーワード）

心弾む協働で感動できる社会
 / 「幸動」（幸せが動く）/ 誰もが大切にされ、自分らしく輝く / ウェルビーイング
 / 教育分野では多様性や個別最適な学びが重要
 / 何歳になっても学び直せる
 / 生きがいと社会参加 / 「自分らしさ」
 / ダイバーシティ推進 / 区職員の働きがい 等

人と人とが自然につながる
 / 感謝の言葉を伝える仕組み
 / 多世代会議による世代を超えた意見交換
 / 人とつながることで自然と心や体が整う
 / おせっかい / ケアし合う
 / コミュニティ強化 / 支え合いで育む
 / 多世代交流、互恵性
 / 住民が地域を守る姿勢、コミュニティ維持 等

こどもたちの幸せの芽が育つ社会
 地域が若者を育て、若者が地域を育てる
 / 人とつながりながら最期まで暮らせる社会
 / カーボンニュートラル、サーキュラーエコノミー、ネイチャーポジティブ
 / 荒川区らしい、やさしく心地よい環境が整っている
 / 財政の健全化や健全な財政運営がこれまで以上に重要
 / 子どもや孫も住み続けられるまちづくり 等

基本目標と政策の方向性

基本目標 1 はぐくみ - 将来にわたって「ひと」が育つまち -

地域の未来を支える子ども・若者が健やかに成長できるような支援や、誰もが年齢にかかわらず学び続けられる環境を整えることにより、地域を支える「ひと」を育て、持続可能なまちづくりの実現を目指します。

子育て

全ての子どもが健やかに
成長できる環境づくり

地域全体で子育てを支え、子どもが健やかに育ち、親が安心して子育てできる、「子育てしたいと思えるまち」が実現しています。

- ✓ 子どもの居場所や興味関心を持てるきっかけづくり等の環境整備
- ✓ 相談できる場、親や保護者の心に寄り添う取組の推進
- ✓ 子どもの権利の尊重と地域一体となった子どものサポート

教育

未来を担う子どもを育む
質の高い教育

子どもの権利を守り、個性や多様性を認め、全ての子どもが主役となって学ぶことのできる環境が実現しています。

- ✓ 多様な子どもが共に学べ、教育につながるができる仕組みの充実
- ✓ 主体的な知識の探索、対話を通じた行動、豊かな学びが得られるカリキュラム
- ✓ 教職員がやりがいをもって働ける環境整備

若者

若者が活躍できるまちの実現

若者が地域社会に参加し、若者の声が形になり、生き生きと活躍できる環境が実現しています。

- ✓ 切れ目のない相談・支援体制の拡充
- ✓ 若者の意見を施策へ反映し、当事者意識を高める好循環の環境づくり
- ✓ 若者が活動しやすく、経験・体験ができる環境整備

生涯学習・スポーツ

健康を支える
生涯学習・スポーツの推進

世代を問わず、誰もが学習やスポーツを通じて、学び続け、健康でいられるまちが実現しています。

- ✓ 多世代の生涯学習・スポーツ参加の促進
- ✓ 多様な施設で多様な体験ができる場づくり
- ✓ 何度でも学び直しができる、成長し続けられる環境づくり

目指す姿

政策の方向性

審議会・小委員会での主なご意見(キーワード)

夢中になって行動 / 街なかに子どもの居場所がある / 安心して遊びに没頭できる場所がある / 子育てのための住み場所の支援 / 働きながら子育てできるまち / 子どもたちが興味関心を持ち、「考動」できるような環境 / 等

子どもの権利 / 誰もが主役になれる / 多様性 / インクルーシブ / 一人ひとりの個性を認める / 学びの多様化 / 勉強の面白さを体験できる教育 / 相談できる人の確保 / 教職員が本来の職務に専念できる環境 / 等

若者の声が形になる / 若者の声がそのまま実現する / 社会的孤立 / 若者の居場所 / 当事者意識を持った若者によるまちづくり / 地域に若者が参加する / さまざまな体験、経験ができる / 起業の支援・促進 / 等

人がつながることで、自然と心も身体も整う / 生活導線の中に生涯学習・スポーツが目に入る / 柔軟な場づくり / 図書館の多様な活用・内容の充実 / 「何歳になっても」「誰でも」「何回でも学び直せる」 / 働く世代に届く学び直しの支援 / 等

基本目標と政策の方向性

基本目標2 ささえあい - みんなが支え合い、生きがいをもって過ごせるまち -

地域におけるつながりを基盤に、誰もが孤立することなく、支え合いながら、生きがいをもって過ごせる社会を目指します。

	健康 健康で安心して暮らせるまちの実現	高齢・介護 いつまでも住み慣れた地域で 自立した生活の実現	障がい・生活支援 誰もがいきいきと 笑顔で暮らすことができる環境づくり
目指す姿	互いに関心を向け合い、ケアし合うことができる、健康で安心して暮らせるまちが実現しています。	高齢者と高齢者を支える人たちを地域全体で支援し、高齢者が安心して社会に参加できる、支え合いのまちが実現しています。	あらゆるバリアフリーを目指し、誰もが尊重され、生きがいを持って社会参加できるまちが実現しています。
政策の方向性	✓ 区民同士が交流し、互いをケアし合う環境づくり ✓ 意識せずとも自然と健康になれるような環境のあるまちづくり ✓ 幼少期からの適切な栄養摂取と運動ができる仕組み・環境の整備	✓ 介護をする家族への支援や高齢者を支える人を地域全体で支援する地域共助の仕組み整備 ✓ 高齢者が地域の一員として自立して生活できる環境整備 ✓ 健康を維持しながら生きがいを持てる環境の整備	✓ 障がい者への支援充実、理解促進による誰もが尊重され、共に暮らせる環境づくり ✓ 低所得者の自立支援等の生活支援による社会参画・自立支援 ✓ 地域の各種主体との連携・協力による地域の福祉基盤の充実

審議会・小委員会での主なご意見（キーワード）

住んでいるとおのずと健康になる / 気が付くと健康になる / ケアしあう / おせっかい（ケア）がある / 区民同士のつながりがある / 子ども時代から筋骨格を育てる / 運動・コミュニティ・食を上手に生かす / 等

長寿社会の進展をポジティブに受け入れられる社会 / 人とつながりながら最期まで暮らせる社会 / 認知症になった方もその家族も安心して暮らせる / 高齢者を支える人を仕組みで支える / 介護・福祉人材が働きやすい持続可能な介護社会 / 支え合いで育むまち / 互恵性がある / 生涯現役 / 等

障がいのある方にも優しい / 誰もが尊重される / 共に生きていける / バリアフリー / 全ての人が生きがいを持ち、社会参加できる / 住まいや仕事を安定させる / 心のバリアフリー / 障がい者本人の意思を尊重した支援 / 孤立しない / 周囲の人と関わる / 等

基本目標と政策の方向性

基本目標3 にぎわい・人情・産業・文化が息づくにぎわいのまち -

人と人とのつながりを核としながら、地域の伝統や文化が継承され、産業・観光振興によりにぎわいの創出を図り、活気に満ちた「荒川区らしさ」があふれる魅力あるまちを目指します。

文化・芸術

豊かな心を育む文化・芸術の推進

産業

活力ある区内産業の振興

地域のにぎわい

にぎわいと魅力あふれる都市の形成

つながり

人々がつながり、地域を育む
コミュニティの創造

目指す姿

誰もが多様な文化や芸術、歴史、伝統に触れられる、心が潤い豊かな感情が生まれるまちが実現しています。

社会の変化に柔軟に対応し、既存産業の強みを活かしつつ新たな産業が生まれ、地域経済全体が持続的に発展する「活力ある産業のまち」が実現しています。

荒川区ならではの魅力が広く認知され、区内外から多くの人々が訪れ、交流を通じて新たな価値が生まれる、活気にあふれた観光のまちが実現しています。

区民が地域の一員として地域に主体的に関わり、互いに支え合い、認め合う、温かい「つながり」に満ちたコミュニティが息づくまちが実現しています。

政策の方向性

- ✓ 多様な文化・芸術に触れ、豊かな感情や創造性を育む環境整備
- ✓ 荒川区に根づく伝統文化や芸術の次世代への継承
- ✓ 多様な文化・芸術の交流による新たな魅力創造

- ✓ 既存産業とスタートアップ支援による新たな産業創出の促進
- ✓ 次世代への技術継承と人材育成の強化
- ✓ 立地ポテンシャルや魅力を活かした荒川区ならではの産業の推進

- ✓ 訪れる人を魅了する質の高い受け入れ体制の構築と体験・消費を促す仕組みの構築
- ✓ 地域資源を活かしたブランド価値の向上
- ✓ 区民と観光客の共存による持続可能な観光

- ✓ 多様な人々が参加し新たな「つながり」を生み出すコミュニティ形成の促進
- ✓ 地域に根差した活動の支援によるコミュニティ力の向上
- ✓ 区民が自然と集い、活動・支え合う場の充実

審議会・小委員会での主なご意見（キーワード）

誰もが文化芸術に触れ関わることができる / 日常の中で文化芸術に触れ、関わることができる / 子どもたちが伝統・文化に関わる / 次世代への文化・芸術の継承 / 日本人の伝統の継承 / 区の伝統的なお祭りの継承・発展 / まちの価値そのものの底上げ / 地域のアイデンティティの形成 / 地に足のついた多文化共生社会 / 等

新たな産業が生まれ、これまで地域を支えてきた産業と融合して、魅力ある地域経済が育まれる / 荒川ブランドの創出及び認知の向上 / 経営者が地域を支え続けられる地域 / 次の世代が楽しみながら産業を引き継ぐ / 起業の魅力向上 / 立地ポテンシャルを活かす / 世界に繋がる企業の誘致 / 等

上辺だけでない本物の魅力・地域のにぎわいの創出 / 区内での消費の促進 / 旅行者に来てもらい、消費してもらい、また来たいと思ってもらえる / 立地特性を生かした観光資源を活かす / 文化・芸術、既存産業と新産業を大切に地域の魅力を持続 / 住民中心 / 区民の生活を中心に据える / 等

区民同士のつながりがある / つながりの広がるまち / 多様な文化に触れあえるまち / 地域コミュニティが充実、地域に根差したコミュニティが形成 / 地域コミュニティの接点を増やす / 多様な世代の居場所が適材適所で確保されている / 等

基本目標と政策の方向性

基本目標4 やすらぎ - 安全安心で快適に暮らせるまち -

災害に強い都市基盤の整備と地域が連携した防災・防犯対策を強化するとともに、
緑化の推進や環境負荷の軽減を図り、安全・安心で快適かつ持続可能な都市環境の実現を目指します。

	防災	防犯・生活安全	都市基盤	住環境	環境・清掃
	災害から区民を守る対策の推進	安全で安心な区民生活の実現	誰もが住みやすい都市環境の確保	安心して快適に住み続けられる住環境の整備	環境にやさしいまちづくりの推進
目指す姿	地域防災力の向上と基盤整備が進み、様々な人々の命と暮らしが守られる災害に強いまちが実現しています。	犯罪や交通事故が少なく、誰もが安心して暮らせる安全・安心なまちが実現しています。	交通利便性が高く、にぎわいと防災性を兼ね備えた、快適で安全に暮らせる都市基盤が整ったまちが実現しています。	充実したコミュニティとともに、様々な人々が安心して快適に暮らすことのできる住環境が実現しています。	区民や事業者が地球温暖化対策や資源循環に主体的に取り組む、環境にやさしい、持続可能なまちが実現しています。
政策の方向性	✓ 木造密集地域の解消による、災害に強い市街地の形成 ✓ 地域コミュニティの活性化と多様な主体・領域との連携による地域防災力の強化 ✓ 適切な防災情報の提供をはじめとする安全確保	✓ 区民同士のつながりとルール共有による見守り機能の向上 ✓ 多様な人々の特性に応じた情報発信と相談体制の整備 ✓ 交通環境の整備と事故防止啓発による安全な移動環境の整備	✓ 公共交通ネットワークの充実と交通手法の活用による移動しやすい環境の実現 ✓ バリアフリー導線の強化と再開発によるにぎわいづくり ✓ 道路・建築物の老朽化対策・長寿命化	✓ 住宅確保の支援とコミュニティ参加促進の仕組みの充実 ✓ 区民の高齢化とマンションの老朽化に対応した合意形成・改修・建替え支援 ✓ 多様な人々が集える施設の維持・整備と自然保護、緑地の確保	✓ カーボンニュートラルや再エネ・省エネ行動支援と普及啓 ✓ 環境負荷の少ない暮らしの実践に向けた区・区民・事業者との連携 ✓ 区民や事業者が一体となった資源循環型社会へ向けた支援・啓発

審議会・小委員会での主なご意見（キーワード）

木造密集地域の文化的魅力を維持しつつ、木造密集地域の解消や耐震・耐火化を推進／緊急車両が通行しやすい道路の整備／防災意識の向上／災害時にも助け合える関係にする／発災時に必要な情報提供／町会・商店街・学校・福祉・行政の連携／等

若年層の犯罪被害・加害の減少／誰もが安心して自転車移動できる／孤立や情報弱者を生まない／町会、商店街、学校・福祉・行政が連携した地域見守りネットワークを強化／情報の伝え方を世代ごとに変える／街中の死角を減らす／等

高齢者やその家族が安心して住み続けられる住まいの確保／マンションの2つの老い／多様な世代の居場所を適材適所で確保／地域コミュニティと積極的に関わりを持てる／子どもや孫も住み続けられるまちづくりや、障害を持つ方でも住みやすい住宅を確保／等

安全・安心かつ快適な道路環境／住民ニーズに応じた公共交通政策／高齢者や高密度居住地区における地域公共交通整備／多様なモビリティの共存／バリアフリー動線を強化／建物ストックの長寿命化／安心して暮らせる都市基盤整備／円滑な避難／等

カーボンニュートラルの意識と行動定着／サーキュラーエコノミー／ネイチャーボジティブ／不法投棄がない／人と自然、人と地域のつながりが深まり、荒川区らしい、やさしく心地よい環境／ごみを出しやすいようにする工夫／等

基本構想を実現するための区政運営

柔軟で機動的かつ実効性の高い、 持続可能な行財政運営の推進

- ✓ EBPM（エビデンスに基づく政策立案）の推進
- ✓ 選択と集中による効果的な資源配分
- ✓ 働きやすい職場環境づくりと人材確保
- ✓ AI等の先進技術の活用による質の高いサービス提供

区の魅力の向上とシビックプライドの形成

- ✓ 地域資源を生かした戦略的シティプロモーションによる認知度・ブランドイメージの向上と選ばれるまちの実現
- ✓ 魅力の発信による区民の区への愛着や誇りの醸成

各政策・施策の実現を加速化させる 協働・共創の推進

- ✓ 地域コミュニティを活かした協働による地域課題の解決
- ✓ 大学や民間事業者・団体の専門人材との連携による社会課題への対応体制の強化

人権・平和・多様性の尊重

- ✓ 全ての人が差別を受けることなく、尊重し合う、人権意識が広く行き渡ったまちの実現
- ✓ 個性や違いを認め、理解し合い、共生できるまちの実現
- ✓ 平和な社会の実現と平和を願う心の次世代への継承

審議会・小委員会での主なご意見（キーワード）

EBPMの推進 / 健全な財政状況が保たれている / 持続的な財政運営がなされている / 全ての職員がやりがいをもって働いている / 職員が常に業務の見直しや区民サービスの向上に努めている / 質の高い職員が確保され、一人ひとりの職員のパフォーマンスが最大化されている / 未来あるAIのまち / 区民視点で行政サービスが向上している / 等

宣伝力の向上 / デジタルツールを使いながら、区民が身近に感じられるような取組 / 住民満足度の向上、住民体験価値の向上、居住体験価値の向上 / 子ども・若者が行政運営に関われる仕組みづくり / 文化・芸術・既存産業と新産業を体制にして、地域の魅力を維持するまち / 若者の声が形になるまち / 等

多様な議論の場づくり / 行政に関わりたい人が、関われる行政 / 多様な人材の登用 / 区民同士のつながりがある / 地域全体でコミュニティが形成されている / 行政・民間・区民のタテ・ヨコ・ナナメの支援 / 住民の理解・協力 / 等

守られ、保証される / 人と理解をしよう、知り合う / 多文化共生 / 相互理解の促進 / 人と理解をしよう、知り合う / 伝統とダイバーシティをみんなで考える / 外国人人口の増加をデメリットとして捉えない / 等

荒川区基本構想答申案

まちづくりの基本理念

2040年の荒川区の将来像の実現に向け、皆さんとともに大切にしていきたいまちづくりの基本理念として、以下の3つを掲げます。

- 幸せを紡ぎ、幸せを感じる

全ての区民が望む生き方を選択でき、一人ひとりが描く幸せを追求し、実感することのできるまちを目指します。

- 共に支え、共に育む

荒川区に受け継がれてきた人と人とのあたたかいつながりを活かし、区・区民・関係団体等のあらゆる主体の連携・協働による、支え合いのまちの実現を目指します。

- 未来につなぎ、未来を創る

区の宝である子どものためにも、明るい未来へ向けて、荒川区が持続可能かつ発展しつづけるまちとなることを目指します。

将来像の実現に向けた 4 つの基本目標

2040年の荒川区の将来像の実現に向けて、4つの基本目標とその方向性を次のとおり示します。

はぐくみ - 将来にわたって「ひと」が育つまち -

- 少子化が進行し、年少人口が減少する中で、地域の未来を支える「ひと」の育成が重要です。子どもや若者が健やかに成長し、年齢にかかわらず学び続けられる環境を整えるとともに、育った人材が地域社会やまちづくりに主体的に参画していくことが持続可能な社会の実現に向けて重要です。
- 「ひと」の育成には、子どもの権利を尊重し、妊娠期から子育て期まで、子どもと家庭を包括的に支える切れ目のない支援が必要です。また、学校教育や生涯学習を充実させることにより、個々の能力と可能性を最大限に引き出す環境を整えることが求められています。
- このような観点から取組を進めることにより、未来の荒川区で、地域を支える「ひと」が育ち、持続可能なまちづくりが実現されることを目指します。

ささえあい - みんなが支え合い、生きがいをもって過ごせるまち -

- 今後、高齢化がさらに進行していくことが予想される中で、地域におけるつながりを基盤として、誰もが安心して暮らし続けられる社会の実現が求められます。
- 年齢や障がいの有無に関係なく、誰もが孤立することなく、協力し合う社会の実現が重要であり、そのためには、きめ細やかな福祉サービスの提供や医療体制の整備、全ての人々が相互理解と尊重をもって健康で自分らしく暮らせる環境を整えることが求められます。
- このような観点から取組を進めることにより、人と人とのつながりの中で支え合いながら、生きがいをもって過ごせる地域社会を実現します。

にぎわい - 人情・産業・文化が息づくにぎわいのまち -

- 少子高齢化と人口減少が進む中、人手不足の深刻化や原材料費・エネルギーコストの高騰が事業者経営に影響を及ぼしています。また、伝統技術や商店の後継者不足が加速する一方で、訪日外国人客によるニーズの変化も見られ、社会経済情勢は目まぐるしく変化しています。このような状況に対して、柔軟かつ機動的な対応が求められています。
- 地域に根ざした伝統や文化、人情味あふれる地域コミュニティ、町工場、商店街、繊維街、銭湯などは荒川区独自の魅力であり、まちに賑わいと活力をもたらす重要な地域資源です。人と人とのつながりと強固な地域コミュニティを核としながら、これらの地域資源を十分に活かした、地域の持続的な発展に向けた取組が必要です。
- このような観点から取組を進めることにより、地域の伝統や文化の保全と継承、産業・観光振興によるにぎわいと交流の創出、住民力の強化を図り、活気に満ちた「荒川区らしさ」があふれる魅力あるまちを実現します。

やすらぎ - 安全安心で快適に暮らせるまち -

- 気候変動の進行と自然災害の激甚化・複合化、都市インフラや住宅の老朽化、治安の確保といった課題に対処するため、区民の生命と生活の安全を確保するとともに、快適な暮らしの基盤整備が重要です。
- 持続可能なまちづくりを実現するためには、災害に強い都市基盤の整備に加え、地域の安全・安心を確保するための包括的な防災・防犯対策が必要です。また、自然環境の保全や緑の拡充を進めることで、住みやすい環境を創出し、地域の魅力と生活の質を向上させる必要があります。
- このような観点から取組を進めることにより、地域の各主体が連携した防災・防犯体制の強化、災害に強い都市基盤の整備、緑化の推進や環境負荷の軽減を図り、安全・安心で快適かつ持続可能な都市環境を築いていきます。

基本目標実現に向けた政策の方向性

4つの基本目標の実現に向け、4つの基本目標に位置付けられる18の政策分野について、それぞれの政策分野の目指す姿と政策の方向性を次のとおりとします。

はぐくみ - 将来にわたって「ひと」が育つまち -

子育て - 全ての子どもが健やかに成長できる環境づくり -

（目指す姿）

地域全体で子育てを支え、子どもが健やかに育ち、親が安心して子育てできる、「子育てしたいと思えるまち」が実現しています。

（政策の方向性）

- ✓ 子どもが安心できる居場所づくり、興味・関心を持てるきっかけづくり等の環境整備を行います。
- ✓ 働く親や保護者が子育てに喜びを感じられるよう、子育て世帯の就労支援や相談できる場づくり等、親や保護者の心に寄り添う取組を推進します。
- ✓ 子どもの権利を尊重し、地域一体となって一人ひとりの子どもに必要なサポートや後押しを提供します。

教育 - 未来を担う子どもを育む質の高い教育 -

（目指す姿）

子どもの権利を守り、個性や多様性を認め、全ての子どもが主役となって学ぶことのできる環境が実現しています。

（政策の方向性）

- ✓ 多様な子どもが共に学ぶことができる環境の整備と、全ての子どもが教育につながるができる仕組みの充実に取り組みます。
- ✓ 子どもが主体的に知識を探索し、対話を通じて獲得した知識を組み合わせで行動する、豊かな学びが得られるカリキュラムを実現します。
- ✓ 学校を支える地域活動の推進により、教職員がやりがいをもって生き生きと働ける環境を整えます。

若者 - 若者が活躍できるまちの実現 -

（目指す姿）

若者が地域社会に参加し、若者の声が形になり、生き生きと活躍できる環境が実現しています。

（政策の方向性）

- ✓ 課題を抱える若者に寄り添うため、切れ目のない相談・支援体制を拡充します。
- ✓ 若者の意見を施策へ反映し、若者の主体的なまちづくりへの関与を促進することで、地域への愛着や当事者意識を高め、地域と若者の関わりの好循環を生む体制を整えます。
- ✓ 若者が活動しやすく、様々な体験・経験ができる環境を整備することで、若者の活躍を後押しします。

生涯学習・スポーツ - 学びと健康を支える生涯学習・スポーツの推進 -

（目指す姿）

世代を問わず、誰もが学習やスポーツを通じて、学び続け、健康でいられるまちが実現しています。

（政策の方向性）

- ✓ 多様な場所での活動の実施やそれらの周知・広報により、あらゆる世代の生涯学習・スポーツへの参加を促進します。
- ✓ 多様な施設で多様な体験ができ、相互作用が生まれるような場づくりを行います。
- ✓ 年齢にかかわらず、何度でも学び直しができ、成長し続けられるような環境づくりを行います。

ささえあい - みんなが支え合い、生きがいをもって過ごせる まち -

健康 - 健康で安心して暮らせるまちの実現 -

（目指す姿）

互いに関心を向け合い、ケアし合うことができる、健康で安心して暮らせるまちが実現しています。

（政策の方向性）

- ✓ 区民同士が交流し、互いをケアしあうことができる環境づくりに取り組みます。
- ✓ 本人が意識せずとも自然と健康になれるような環境のあるまちづくりを進めます。
- ✓ 健康維持に必要な身体をつくるため、幼少期から、適切な栄養の摂取と十分な運動ができる仕組み・環境を整えます。

高齢・介護 - いつまでも住み慣れた地域で自立した生活の実現 -

（目指す姿）

高齢者と高齢者を支える人たちを地域全体で支援し、高齢者が安心して社会に参加できる、支え合いのまちが実現しています。

（政策の方向性）

- ✓ 介護をする家族への支援や、高齢者を支える人たちを地域全体で支援する地域共助の仕組みを整備します。
- ✓ 当事者の意思を尊重し、高齢者が見守られるだけでなく、地域の一員として自立して生活を送ることができる環境を整備します。
- ✓ 健康を維持しながら生きがいを持てる環境を整備します。

障がい・生活支援 - 誰もがいきいきと笑顔で暮らすことができる環境づくり -

（目指す姿）

あらゆるバリアフリーを目指し、誰もが尊重され、生きがいを持って社会参加できるまちが実現しています。

（政策の方向性）

- ✓ 障がい者への支援の充実、障がい者への理解を促進するとともに、障がい者がそれぞれの得意分野を生かして支え合える、誰もが尊重され、共に暮らせる環境づくりを推進します。
- ✓ 低所得者の自立支援をはじめとする生活支援を進めることにより、社会参画・自立支援を推進します。
- ✓ 民生委員をはじめとする地域の各主体と連携・協力し、地域の福祉に関する基盤を充実させます。

にぎわい - 人情・産業・文化が息づくにぎわいのまち

-

文化・芸術 - 豊かな心を育む文化・芸術の推進 -

（目指す姿）

誰もが多様な文化や芸術、歴史、伝統に触れられる、心が潤い豊かな感情が生まれるまちが実現しています。

（政策の方向性）

- ✓ 区民が多様な文化・芸術に触れ、豊かな感情や創造性を育むことのできる環境を整備します。
- ✓ 荒川区に根付いている伝統文化や芸術を、次世代へ継承していきます。
- ✓ 多様な文化・芸術が交流し、荒川区を舞台に新たな魅力が創造されていく環境を整備します。

産業 - 活力ある区内産業の振興 -

（目指す姿）

社会の変化に柔軟に対応し、既存産業の強みを活かしつつ新たな産業が生まれ、地域経済全体が持続的に発展する「活力ある産業のまち」が実現しています。

（政策の方向性）

- ✓ 地域を支えてきたものづくり産業等の既存産業とスタートアップ支援等による新たな産業創出を促進します。
- ✓ 地域全体で産業を支え、活性化するため、次世代への技術継承と人材育成の強化に取り組みます。
- ✓ 立地のポテンシャルの高さと既存産業の技術・魅力を活かした、荒川区ならではの産業を積極的に推進します。

地域のにぎわい - にぎわいと魅力あふれる都市の形成 -

（目指す姿）

荒川区ならではの魅力が広く認知され、区内外から多くの人々が訪れ、交流を通じて新たな価値が生まれる、活気にあふれた観光のまちが実現しています。

（政策の方向性）

- ✓ 荒川区を訪れる人を魅了する質の高い受け入れ体制を構築し、体験と消費を促す仕組みの構築に取り組みます。
- ✓ 荒川区固有の地域資源を最大限に活かし、ブランド価値を高めます。
- ✓ 区民と観光客が互いに共存する、持続可能な観光を推進します。

つながり - 多様な人々がつながり、地域を育むコミュニティの創造

-

（目指す姿）

区民が地域の一員として地域に主体的に関わり、互いに支え合い、認め合う、温かい「つながり」に満ちたコミュニティが息づくまちが実現しています。

（政策の方向性）

- ✓ 多様な人々が参加し、新たな「つながり」を生み出すコミュニティ形成を促進します。
- ✓ 地域に根差した活動を支援し、コミュニティの力をより高めます。
- ✓ 区民が自然と集い、活動し、互いを支え合う場の充実に図ります。

やすらぎ - 安全安心で快適に暮らせるまち -

防災 - 災害から区民を守る対策の推進 -

（目指す姿）

地域防災力の向上と基盤整備が進み、様々な人々の命と暮らしが守られる災害に強いまちが実現しています。

（政策の方向性）

- ✓ 建物の耐震化や不燃化、緊急車両の円滑な通行を可能とする道路の整備、公園等のオープンスペースの確保により、木造住宅密集地域の解消を進め、災害に強い市街地を形成します。
- ✓ 区民の防災意識の向上と地域コミュニティの活性化を図るとともに、多様な主体・領域と横断的に連携することにより、地域防災力の強化を推進します。
- ✓ 区内滞在者に対する適切な防災情報の提供をはじめ、あらゆる人の安全を守る取組を進めます。

防犯・生活安全 - 安全で安心な区民生活の実現 -

（目指す姿）

犯罪や交通事故が少なく、誰もが安心して暮らせる安全・安心なまちが実現しています。

（政策の方向性）

- ✓ 犯罪発生の抑制と区民が犯罪に不安を感じない地域社会を形成するため、区民同士のつながりと地域におけるルールの共有を進め、地域全体の見守り機能を向上させます。
- ✓ 若者や高齢者など多様な人々の特性に応じた情報発信と相談体制を整備し、防犯に関する情報弱者を生まない地域づくりを推進します。
- ✓ 自転車や新たなモビリティの交通環境の整備と事故防止に向けた啓発を一体的に進め、歩行者も運転者も安全・安心に移動できる環境を整えます。

都市基盤 - 誰もが住みやすい都市環境の確保 -

（目指す姿）

交通利便性が高く、にぎわいと防災性を兼ね備えた、快適で安全に暮らせる都市基盤が整ったまちが実現しています。

（政策の方向性）

- ✓ 公共交通ネットワークの充実や新たな交通手法の活用など、子どもから高齢者まで移動しやすい都市環境を実現します。
- ✓ 再開発に合わせて区域内に適切な機能を設けることや、バリアフリー導線を強化することにより、誰もが楽しめるにぎわいのあるまちの形成に取り組みます。
- ✓ 道路や建築物の老朽化対策や長寿命化の実施により、防災機能が高く、安心して暮らせる都市基盤を整備します。

住環境 - 安心して快適に住み続けられる住環境の整備 -

（目指す姿）

充実したコミュニティとともに、様々な人々が安心して快適に暮らすことのできる住環境が実現しています。

（政策の方向性）

- ✓ 様々な人々が地域で暮らし続けられるよう、住宅確保の支援とコミュニティへの参加を促す仕組みの充実に取り組みます。
- ✓ 区民の高齢化とマンションの老朽化に対応するため、合意形成支援や改修・建替えの相談など、適切な支援を実施します。
- ✓ 子どもから高齢者まで多様な人々が集えるよう、公園やコミュニティ施設等の公共施設の適切な維持・整備を進めるとともに、様々な主体と協力しながら、自然保護や緑地の確保など、全ての人にとって居心地の良い居住環境づくりに取り組みます。

環境・清掃 - 環境にやさしいまちづくりの推進 -

（目指す姿）

区民や事業者が地球温暖化対策や資源循環に主体的に取り組む、環境にやさしい、持続可能なまちが実現しています。

（政策の方向性）

- ✓ 区民や事業者がカーボンニュートラルの意義を理解し、再エネ利用や省エネ行動などの具体的な取組を進められるよう、支援と普及啓発を進めます。
- ✓ 区民・事業者・区（行政）の密接な連携のもと、ごみの削減や環境美化の推進など、区民一人ひとりが環境負荷の少ない暮らしを实践できるよう取り組みます。
- ✓ 資源循環型社会の実現に向け、サーキュラーエコノミー（循環経済）の推進など、区民や事業者が一体となった資源循環への支援と啓発を進めます。

基本構想を実現するための区政運営方針

2040年の荒川区の将来像の実現に向けた4つの基本目標を実現するために必要となる区政運営の方針について、次のとおり位置付けます。

区政運営の方針 1

柔軟で機動的かつ実効性の高い、持続可能な行財政運営の推進

- ✓ 複雑化・多様化する行政課題に対応するため、政策形成の際に、合理的根拠に基づく政策を立案する E B P M（Evidence-Based Policy Making：エビデンスに基づく政策立案）の考え方を導入します。
- ✓ 今後の人口動向や社会動向を見据えた中長期的な行財政運営戦略に基づき、選択と集中による効果的な資源配分を行います。
- ✓ 職員が働きがいを感じ、働き続けたいと思える職場環境を整備し、人材を確保します。
- ✓ 業務の高度化・効率化、地域課題の解決に向け、A Iなどの先進技術を積極的に活用し、質と利便性の高い行政サービスの提供を行います。

区政運営の方針 2

区の魅力の向上とシビックプライドの形成

- ✓ 住む・働く・学ぶ・訪れる場所として荒川区が多くの方から選ばれるよう、地域資源を最大限に生かした戦略的なシティプロモーションにより、区の認知度やブランドイメージを向上させます。
- ✓ 荒川区での暮らしに愛着と誇りを持てるよう、区民に対しても区の魅力を積極的に発信していきます。

区政運営の方針 3

各政策・施策の実現を加速化させる協働・共創の推進

- ✓ 区の強みである地域コミュニティを活かし、区民や町会等と様々な場面において協働し、ともに地域課題の解決に取り組んでいきます。
- ✓ 大学や民間事業者、民間団体等の専門人材と積極的に連携し、様々な社会課題への対応体制を強化します。

区政運営の方針 4

人権・平和・多様性の尊重

- ✓ 全ての人が差別を受けることなく、他者の人権を深く理解し、尊重し合う、人権意識が広く行き渡ったまちを目指します。
- ✓ 個性や違いを認め、理解しあい、共生できる寛容なまちを目指します。
- ✓ 平和な社会の実現と、平和を願う心を次世代へつないでいきます。

荒川区基本構想の 将来像案



将来像(案)

- 将来像の要素になりうるキーワード（審議会・ワークショップ意見等）

- | | |
|-------------|--------------|
| •ひと(人) | •地域の力 / 地域の絆 |
| •みんな | •笑顔 |
| •つなぐ / つながり | •輝く |
| •つむぐ | •暮らしやすい |
| •ぬくもり | •活きる |
| •あたたかい | |

将来像(案)

- キーワードから検討した将来像案

ひとが^い活きる　ぬくもりあるまち　あらかわ

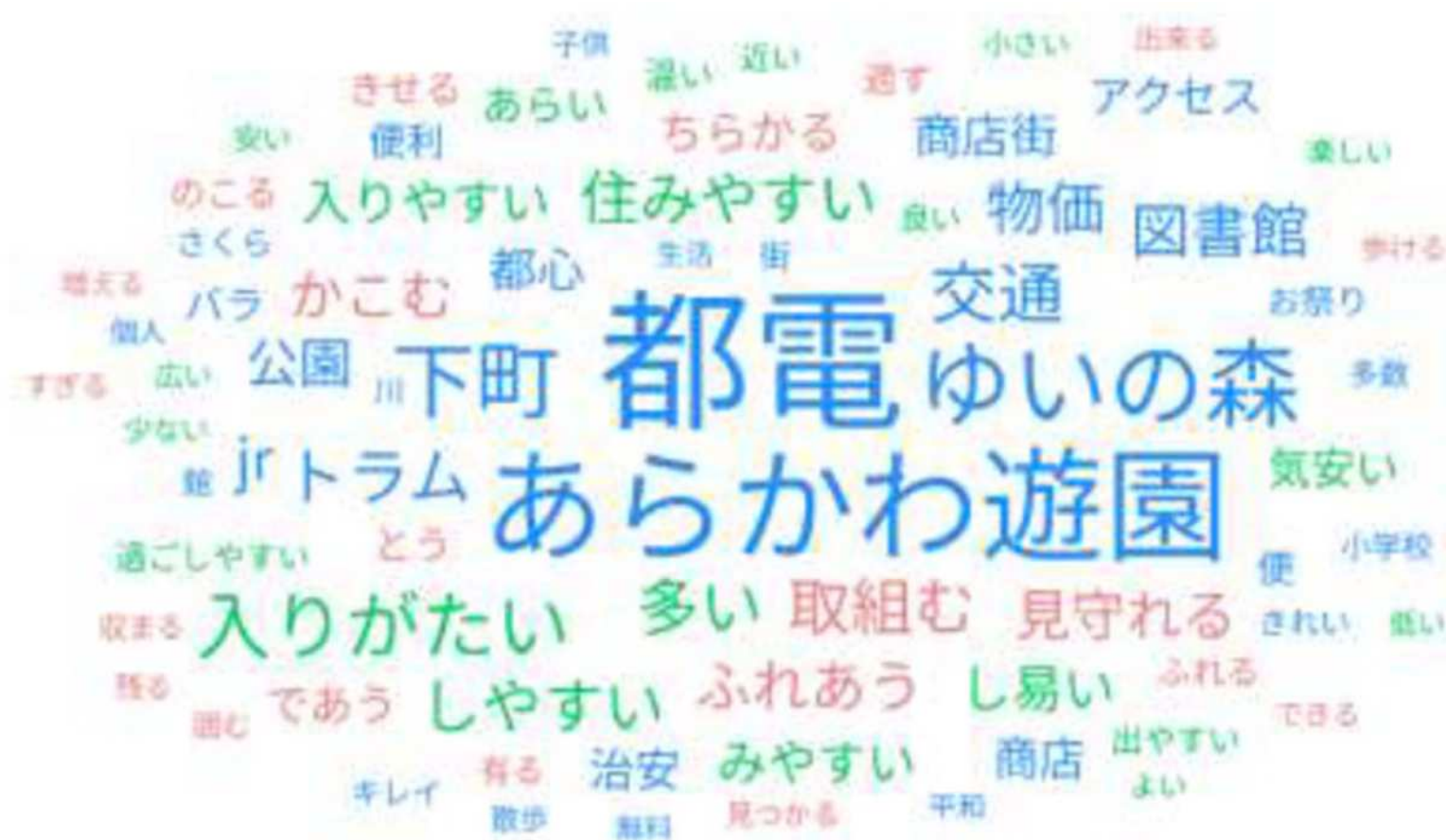
ともに^{ゆい}つくる　結のまち　あらかわ

ひとよい　すみよい　こちよい　あらかわ

つなぎ　つながり　つむぐまち　あらかわ

みんな輝く　あたたかいまち　あらかわ

●（参考）区民ワークショップにおけるワードクラウド



将来像 (案)



● (参考) 他区の将来像

千代田区	伝統と未来が調和し、躍進するまち～彩りあふれる、希望の都心～	世田谷区	—
中央区	輝く未来へ橋をかける - 人が集まる粋なまち -	渋谷区	ちがいを ちからに 変える街。渋谷区
港区	やすらぎある世界都心・MINATO	中野区	つながる はじまる なかの
新宿区	『新宿力』で創造する、やすらぎとにぎわいのまち	杉並区	みどり豊かな 住まいのみやこ
文京区	歴史と文化と緑に育まれた、みんなが主役のまち「文の京」	豊島区	-
台東区	世界に輝く ひと まち たいとう	北区	ともにつくる だれもが住みよい 彩り豊かな躍動するまち 北区
墨田区	人がつながり夢をカタチに墨田区	板橋区	未来をひらく 緑と文化がかがやくまち ” 板橋 ”
品川区	輝く笑顔 住み続けたいまち しながわ	練馬区	-
江東区	みんなでつくる伝統、未来水彩都市・江東	足立区	協創力でつくる活力にあふれ進化し続けるひと・まち 足立
目黒区	さくら咲きこちよいまちずっとめぐろ	葛飾区	みんなでつくる、水と緑と人情が輝く暮らしやすいまち・葛飾
大田区	心やすらぎ 未来へはばたく笑顔のまち 大田区	江戸川区	創造性豊かな文化はぐくむ 水辺と緑がかがやく 安心と活力ある 生きる喜びを実感できる都市

今後のスケジュール



今後のスケジュール



会議	開催日時	場所	議題
第4回基本構想審議会	令和8年6月29日(月) 18時30分～	サンパール荒川 3階 小ホール	- 将来像について検討 - 第3回審議会での議論を踏まえ修正した答申案について検討して決定する
第5回基本構想審議会	令和8年7月27日(月) 18時30分～	日暮里サニーホール	基本構想審議会会長から区長に対して答申。

第 3 回荒川区基本構想審議会 追加意見シート

荒川区基本構想素案や将来像について、追加でご意見がある方は、以下の枠に記載
のうえ、令和 8 年 5 月 2 9 日（金）までに、事務局へご提出ください。

(参考 1)

66

審議会・小委員会での意見対応表（基本目標）

（参考１）

基本目標	素案の記載内容	審議会・小委員会での意見、キーワード	意見の出典
はぐくみ - 将来にわたって「ひと」が育つまち -	少子化が進行し、年少人口が減少する中で、地域の未来を支える「ひと」の育成が重要です。子どもや若者が健やかに成長し、年齢にかかわらず学び続けられる環境を整えるとともに、育った人材が地域社会やまちづくりに主体的に参画していくことが持続可能な社会の実現に向けて重要です。 「ひと」の育成には、子どもの権利を尊重し、妊娠期から子育て期まで、子どもと家庭を包括的に支える切れ目のない支援が必要です。また、学校教育や生涯学習を充実させることにより、個々の能力と可能性を最大限に引き出す環境を整えることが求められています。 このような観点から取組を進めることにより、未来の荒川区で、地域を支える「ひと」が育ち、持続可能なまちづくりが実現されることを目指します。	・「何歳になっても」「誰でも」「何回でも学びなおせる」	第2回審議会
		・一生涯にわたって	第2回審議会
		・地域に若者が参加するまち	第2小委員会
		・「ひと」が育ち、育った人がまちづくりに関わり、持続可能なまちを実現する	第2回審議会
		・一人ひとりの個性を認める教育	第2小委員会
ささえあい - みんなが支え合い、生きがいをもって過ごせるまち -	今後、高齢化がさらに進行していくことが予想される中で、地域におけるつながりを基盤として、誰もが安心して暮らし続けられる社会の実現が求められます。 年齢や障害の有無に関係なく、誰もが孤立することなく、協力し合う社会の実現が重要であり、そのためには、きめ細やかな福祉サービスの提供や医療体制の整備、全ての人が相互理解と尊重をもって健康で自分らしく暮らせる環境を整えることが求められます。 このような観点から取組を進めることにより、人と人とのつながりの中で支え合いながら、生きがいをもって過ごせる地域社会を実現します。	・誰もが大切にされ、自分らしく輝くまち	第2回審議会
		・ずっと住み続けたいまち	第2小委員会
		・安心して歳を重ねられるまち	第2小委員会
		・人と人がつながるやさしいまち	第2小委員会
		・孤立しない	第2小委員会
		・いきがい	第2小委員会
		・ケアしあう	第2小委員会
		・つながり	第2小委員会
		・支え合いで育むまち	第2小委員会
		・自分らしさを発揮できるまち	第2小委員会
にぎわい - 人情・産業・文化が息づくにぎわいのまち -	少子高齢化と人口減少が進む中、人手不足の深刻化や原材料費・エネルギーコストの高騰が企業経営に影響を及ぼしています。また、伝統技術や商店の後継者不足が加速する一方で、訪日外国人客によるニーズの変化も見られ、社会経済情勢は目まぐるしく変化しています。このような状況に対して、柔軟かつ機動的な対応が求められています。 地域に根ざした伝統や文化、人情味あふれる地域コミュニティ、町工場、商店街、繊維街、銭湯などは荒川区独自の魅力であり、まちに賑わいと活力をもたらす重要な地域資源です。人と人とのつながりと強固な地域コミュニティを核としながら、これらの地域資源を十分に活かした、地域の持続的な発展に向けた取組が必要です。 このような観点から取組を進めることにより、地域の伝統や文化の保全と継承、産業・観光振興によるにぎわいと交流の創出、住民力の強化を図り、活気に満ちた「荒川区らしさ」が溢れる魅力あるまちを実現します。	・保全と継承が重要	第2回審議会
		・銭湯も重要であるが、繊維街も重要	第2回審議会
		・文化・芸術、既存産業と新産業を大切に地域に魅力を維持するまち	第1小委員会
		・にぎわいの空間の形成	第1小委員会
		・荒川区らしさが適材適所で発揮され、地域住民の荒川区への誇りと愛着が醸成されている	第1小委員会
やすらぎ - 安全安心で快適に暮らせるまち -	気候変動の進行と自然災害の激甚化、都市インフラや住宅の老朽化、治安の確保といった課題に対処するため、区民の生命と生活の安全を確保するとともに、快適な暮らしの基盤整備が重要です。 持続可能なまちづくりを実現するためには、災害に強い都市基盤の整備に加え、地域の安全・安心を確保するための包括的な防災・防犯対策が必要です。また、自然環境の保全や緑の拡充を進めることで、住みやすい環境を創出し、地域の魅力と生活の質を向上させる必要があります。 このような観点から取組を進めることにより、地域の各主体が連携した防災・防犯体制の強化、災害に強い都市基盤の整備、緑化の推進や環境負荷の軽減を実現し、安全・安心で快適かつ持続可能な都市環境を築いていきます。	・公園整備に関する記載がない	第2回審議会
		・火災・地震・水害に強い	第1小委員会
		・災害リスクへの対応	第1小委員会
		・犯罪の変化にも対応できている	第1小委員会
		・荒川区らしい、やさしく心地よい環境が育っている	第1小委員会
		・自然が守られている	第1小委員会
		・区民高齢化とマンションの老朽化の2つの古い	第1小委員会

審議会・小委員会での意見対応表（政策）

（参考1）

基本目標	政策	種別	素案の記載内容	審議会・小委員会での意見、キーワード	意見の出典
はぐくみ - 将来にわたって「ひと」が育つまち -	子育て - 全ての子どもが健やかに成長できる環境づくり -	目指す姿	地域全体で子育てを支え、子どもが健やかに育ち、親が安心して子育てできる、「子育てしたいと思えるまち」が実現しています。	子ども親も笑っている	第2小委員会
				荒川区のみなさんに支えてもらっている実感が持てる	第2小委員会
		政策の方向性	子どもが安心できる居場所づくり、興味・関心を持てるきっかけづくり、挑戦できる施設整備を行います。	幸せの芽が育つ、こころ弾む、共働する、子どもの興味関心が育つ環境づくり	第2小委員会
				夢中になって行動	第2小委員会
		政策の方向性	働く親や保護者が子育てに喜びを感じられるよう、子育て世帯の就労支援や相談できる場づくり等、親や保護者の心に寄り添う取組を推進します	まちなかに子どもの居場所がたくさんある	第2小委員会
				清潔感のある安心して遊びに没頭できる場所（プレイパークなど）	第2小委員会
		政策の方向性	子どもの権利を尊重し、地域一体となって一人ひとりの子どもに必要なサポートや後押しを提供します。	子育てのための住む場所の支援	第2小委員会
				働きながら子育てできるまち	第2小委員会
		政策の方向性	子どもの権利を尊重し、地域一体となって一人ひとりの子どもに必要なサポートや後押しを提供します。	子どもの権利	第2小委員会 第2小委員会
				データと現場の声をリアルタイムで把握・分析 柔軟で機動力のある制度設計 根拠のある支援	第2小委員会 第2小委員会 第2小委員会
はぐくみ - 将来にわたって「ひと」が育つまち -	教育 - 未来を担う子どもを育む質の高い教育 -	目指す姿	子どもの権利を守り、個性や多様性を認め、全ての子どもが主役となって学ぶことのできる環境が実現しています。	子どもの権利	第2小委員会
				誰もが主役になれるまち 荒川 多様性 インクルーシブ 一人ひとりの個性を認める教育 子ども一人ひとりに合わせる	第2小委員会 第2小委員会 第2小委員会 第2小委員会 第2小委員会
		政策の方向性	多様な子どもが共に学ぶことができる教室の整備と、全ての子どもが教育につながる制度の充実に取り組みます。	個別最適	第2小委員会
				多様性 一人ひとりの個性を認める教育 インクルーシブ	第2小委員会 第2小委員会 第2小委員会
		政策の方向性	子どもが主体的に知識を探索し、対話を通じて獲得した知識を組み合わせる行動する、豊かな学びが得られるカリキュラムを実現します。	学校教育をより寛容にする	第2小委員会
				学びの多様化 勉強の面白さを体験できる教育	第2小委員会 第2小委員会
		政策の方向性	学校を支える地域活動の推進により、教職員がやりがいをもって生き生きと働ける環境を整えます。	働きたいまち荒川区	第2小委員会
				ハートフルメッセージ 困ったことが言える環境づくり、相談できる人の確保 教職員が本来の職務に専念できる環境づくり	第2小委員会 第2小委員会 第2小委員会
		政策の方向性	若者が地域社会に参加し、若者の声が生かされ、生き生きと活躍できる環境が実現しています。	若者の声が生かされるまち	第2小委員会
				さまざまな体験、経験ができるまち 人生の始まり期を応援するまち 社会的孤立 「わっか」の充実 若者の居場所	第2小委員会 第2小委員会 第2小委員会 第2小委員会 第2小委員会
はぐくみ - 将来にわたって「ひと」が育つまち -	若者 - 若者が活躍できるまちの実現 -	目指す姿	若者の意見が施策へ反映し、若者の主体的なまちづくりへの関与を促進することで、地域への愛着や当事者意識を高め、地域と若者の関わり合いの好循環を生む体制を整えます。	若者の声が生かされるまち	第2小委員会
				子ども・若者の思いが実現する大人の懐の深さがあるまち 若者の声がそのまま実現するまち 当事者意識を持った若者によるまちづくり 地域に若者が参加するまち	第2小委員会 第2小委員会 第2小委員会 第2小委員会
		政策の方向性	若者が活動しやすく、様々な体験・経験ができる環境を整備することで、若者の活躍を後押しします。	ハード面での環境整備（荒川区全体で運動できる場所や学習できる場所などを配置、やりたいことが見つかることを支援） 起業の支援・促進	第2小委員会 第2小委員会
				人がつながることで、自然と心も身体も整うまち	第2小委員会
		政策の方向性	多様な場所での活動の実施やそれらの周知・広報により、あらゆる世代の生涯学習・スポーツへの参加を促進します。	生活專線の中に生涯学習・スポーツが目に入るまち	第2小委員会
				情報が届かない人へのアプローチ 地域のサポーターの参加	第2小委員会 第2小委員会
		政策の方向性	多様な施設で多様な体験ができ、相互作用が生まれるような場づくりを行います。	柔軟な場づくり	第2小委員会
				図書館の多様な活用・内容の充実	第2小委員会
		政策の方向性	年齢にかかわらず、何度でも学び直しができ、成長し続けられるような環境づくりを行います。	「何歳になっても」「誰でも」「何回でも学び直せる」 働く世代に属く学び直しの支援	第2小委員会 第2小委員会

ささえあい - みんなが支え合い、生きがいをもって過ごせるまち -	健康 - 健康で安心して暮らせるまちの実現 -	目指す姿	互いに関心を向け合い、ケアし合うことができる、健康で安心して暮らせるまちが実現しています。	住んでいるとおのずと健康になる、気が付くと健康になる	第2小委員会
		政策の方向性	区民同士が交流し、互いをケアしあうことができる環境づくりに取り組めます。	ケアしあう おせっかい(ケア)がある 関心を向け合う	第2小委員会 第2小委員会 第2小委員会
				住んでいるとおのずと健康になる、気が付くと健康になる 誰もが健康になれるまち	第2小委員会 第2小委員会
		政策の方向性	本人が意識せずとも自然と健康になれるような環境のあるまちづくりを進めます。	区民同士のつながりがある	第2小委員会
				ケアしあう おせっかい(ケア)がある	第2小委員会 第2小委員会
		政策の方向性	健康維持に必要な身体をつくるため、幼少期から、適切な栄養の摂取と十分な運動ができる仕組み・環境を整えます。	骨格・脳・臓器が健康である	第2小委員会
				子ども時代から筋骨格を育てる 運動・コミュニティ・食を上手に生かす	第2小委員会 第2小委員会
	ささえあい - みんなが支え合い、生きがいをもって過ごせるまち -	目指す姿	高齢者と高齢者を支える人たちを地域全体で支援し、高齢者が安心して社会に参加できる、支え合いのまちが実現しています。	高齢者を支える人を支える、真心だけに頼らない、無理ではなく仕組みで支える	第2小委員会
				長寿社会の進展をポジティブに受け入れられる社会 高齢者人口の増加をデメリットとして捉えない 安心して歳を重ねられるまち 住み慣れた地域で、人とつながりながら最後まで暮らせる社会 支え合いで育むまち 互恵性がある	第2小委員会 第2回審議会 第2小委員会 第2小委員会 第2小委員会 第2小委員会
		政策の方向性	介護をする家族への支援や、高齢者を支える人たちを地域全体で支援する地域共助の仕組みを整備します。	高齢者を支える人を支える、真心だけに頼らない、無理ではなく仕組みで支える	第2小委員会
				認知症になった人もその家族も安心して暮らせる荒川区 介護・福祉人材が働きやすい荒川区 持続可能な介護社会 互恵性がある	第2小委員会 第2小委員会 第2小委員会 第2小委員会
		政策の方向性	当事者の意思を尊重し、高齢者が見守られるだけでなく、地域の一員として自立して生活を送ることができる環境を整備します。	認知症になってもその人らしく感情豊かに笑顔でいられる社会 安心して歳を重ねられるまち 積極的に高齢者が社会参画できる荒川区	第2小委員会 第2小委員会 第2小委員会
				生涯現役社会 積極的に高齢者が社会参画できる荒川区 歳を重ねるほど豊かになるまち	第2小委員会 第2小委員会 第2小委員会
ささえあい - みんなが支え合い、生きがいをもって過ごせるまち -	障がい・生活支援 - 誰もがいきいきと笑顔で暮らすことができる環境づくり -	目指す姿	あらゆるバリアフリーを目指し、誰もが尊重され、生きがいを持って社会参加できるまちが実現しています。	障がいのある方にも優しいバリアフリーなまちづくり	第2小委員会
				誰もが尊重されるまち 全ての人が生きがいを持ち、社会参加できるまち ユニバーサル	第2小委員会 第2小委員会 第2小委員会
		政策の方向性	障がい者への支援の充実、障がい者への理解を促進するとともに、障がい者がそれぞれの得意分野を生かして支え合える、誰もが尊重され、共に暮らせる環境づくりを推進します。	障がいのある方にも優しいバリアフリーなまちづくり	第2小委員会
				障がいの有無にかかわらず共に生きていけるまち 誰もが尊重されるまち 全ての人が生きがいを持ち、社会参加できるまち ユニバーサル	第2小委員会 第2小委員会 第2小委員会 第2小委員会
		政策の方向性	低所得者の自立支援をはじめとする生活支援を進めることにより、社会参画・自立支援を推進します。	住まいや仕事を安定させる	第2小委員会
				誰もが尊重されるまち 孤立しない、周囲の人と関わる できないことは互いに依存しあいつつ、自分でできることを増やす支援	第2小委員会 第2小委員会 第2小委員会
		政策の方向性	民生委員をはじめとする地域の各主体と連携・協力し、地域の福祉に関する基盤を充実させます。	誰もが尊重されるまち	第2小委員会
				孤立しない、周囲の人と関わる 民生委員の情報の公開と周知	第2小委員会 第2小委員会

にぎわい - 人情・産業・文化が息づくにぎわいのまち -	文化・芸術 ・豊かな心を育む文化・芸術の推進 -	目指す姿	誰もが多様な文化や芸術、歴史、伝統に触れられる、心が潤い豊かな感情が生まれるまちが実現しています。	誰もが文化芸術に触れ関わるができるまち（無関心層を含めてどう広げていくか、障害の有無、年齢、経済状況に関わらず関われる）	第1小委員会
		政策の方向性	区民が多様な文化・芸術に触れ、豊かな感情や創造性を育むことのできる環境を整備します。	日常の中で文化芸術に触れ、関わるができるまち	第1小委員会
		政策の方向性	荒川区に根付いている伝統文化や芸術を、次世代へ継承していきます。	誰もが文化芸術に触れ関わるができるまち（無関心層を含めてどう広げていくか、障害の有無、年齢、経済状況に関わらず関われる）	第1小委員会
		政策の方向性	多様な文化・芸術が交流し、荒川区を舞台に新たな魅力が創造されていく環境を整備します。	子どもたちが伝統・文化に関わるきっかけづくり	第1小委員会
				次世代への文化・芸術の継承	第1小委員会
				日本人の伝統（礼儀正しさ）の継承	第1小委員会
				荒川区の伝統的なお祭りの継承・発展	第1小委員会
				まちの価値そのものの底上げ	第1小委員会
にぎわい - 人情・産業・文化が息づくにぎわいのまち -	産業 ・活力ある区内産業の振興 -	目指す姿	社会の変化に柔軟に対応し、既存産業の強みを活かしつつ新たな産業が次々と生まれ、地域経済全体が持続的に発展する「活力ある産業のまち」が実現しています。	地域のアイデンティティの形成	第1小委員会
		政策の方向性	地域を支えてきたものづくり産業等の既存産業とスタートアップ支援等による新たな産業創出を促進します。	地に足のついた多文化共生社会	第1小委員会
		政策の方向性	地域全体で産業を支え、活性化するため、次世代への技術継承と人材育成の強化に取り組みます。	社会の変化に応じた新たな産業が生まれ、これまで地域を支えてきた産業と融合して、魅力ある地域経済が育まれ活力のあるまち	第1小委員会
		政策の方向性	立地のポテンシャルの高さと既存産業の技術・魅力を活かした、荒川区ならではの産業を積極的に推進します。	荒川ブランドの創出及び認知の向上	第1小委員会
				これまでの産業と新たな産業の融合	第1小委員会
				経営者が地域を支え続けられる地域	第1小委員会
				次の世代が楽しみながら産業を引き継いでいる環境があるまち	第1小委員会
				荒川区での起業の魅力を向上させる	第1小委員会
にぎわい - 人情・産業・文化が息づくにぎわいのまち -	地域のにぎわい ・にぎわいと魅力あふれる都市の形成 -	目指す姿	荒川区ならではの魅力が広く認知され、区内外から多くの人々が訪れ、交流を通じて新たな価値が生まれる、活気にあふれた観光のまちが実現しています。	立地ポテンシャルを活かした産業振興が実現しているまち	第1小委員会
		政策の方向性	荒川区を訪れる人を魅了する質の高い受け入れ体制を構築し、体験と消費を促す仕組みの構築に取り組みます。	世界に繋がる企業の誘致が出来ているまち	第1小委員会
		政策の方向性	荒川区固有の地域資源を最大限に活かし、ブランド価値を高めます。	上辺だけでない本物の魅力・地域のにぎわいを創り上げる	第1小委員会
		政策の方向性	区民と観光客が互いに共存する、持続可能な観光を推進します。	区内での消費の促進	第1小委員会
				旅行者に来てもらい、消費してもらい、また来たいと思ってもらえるような取組	第1小委員会
				立地特性を生かした観光資源の実施	第1小委員会
				文化・芸術、既存産業と新産業を大切に地域魅力を持するまち	第1小委員会
				住民中心	第1小委員会
にぎわい - 人情・産業・文化が息づくにぎわいのまち -	つながり ・多様な人々がつながり、地域を育むコミュニティの創造 -	目指す姿	区民が地域の一員として地域に主体的に関わり、互いに支え合い、認め合う、温かい「つながり」に満ちたコミュニティが息づくまちが実現しています。	区民の生活を中心に据える	第1小委員会
		政策の方向性	多様な人々が参加し、新たな「つながり」を生み出すコミュニティ形成を促進します。	区民同士のつながりがある	第2小委員会
		政策の方向性	地域に根差した活動を支援し、コミュニティの力をより高めます。	つながりの広がるまち	第2小委員会
		政策の方向性	区民が自然と集い、活動し、互いを支え合う場の充実を図ります。	多様な文化に触れあえるまち	第2小委員会
				地域コミュニティが充実している	第2小委員会
				地域に根差したコミュニティが形成されている	第2小委員会
				コミュニティの希薄化	第2小委員会
				多様な世代の居場所が適材適所で確保されている	第2小委員会
				地域コミュニティの接点を増やす	第2小委員会
				コミュニティ施設の計画的な配置・整備	第2小委員会

やすらぎ - 安全安心で快適に暮らせるまち -	防災 ・災害から区民を守る対策の推進 -	目指す姿	地域防災力の向上と基盤整備が進み、様々な人々の命と暮らしが守られる災害に強いまちが実現しています。	木造密集地域の解消や耐震・耐火化、緊急車両が通行しやすい道路の整備	第1小委員会
		政策の方向性	老朽住宅の除却や耐震性・耐火性の高い建物への建替え、緊急車両が通行しやすい道路の整備、オープンスペースの確保等を進めることで、木造密集地域を解消し、不燃領域率を高め、災害に強い市街地を形成します。	防災意識の向上 木造密集地域を解消する。ただし、木造密集地域の文化的魅力を維持することも考慮し、耐震化・耐火化により災害に強い木造密集地域を打ち出すことも選択肢である。 不燃領域率を向上する。 緊急車両が通行可能で、延焼を防止する広い通路を増やす。	第1小委員会 第1小委員会 第1小委員会 第1小委員会
		政策の方向性	区民の防災意識の向上と地域コミュニティの活性化を図るとともに、多様な主体・領域と横断的に連携することにより、地域防災力の強化を推進します。	地域コミュニティを充実させ、お互いが顔見知りとなり、災害時にも助け合える関係にする。 タワーマンションの建設によるジェントリフィケーションと並行して住民が集まる理由が薄まるなかで、住民が集まることに新たな意義や目的を見出す。 区民の防災意識を向上する。 町会による町内でのイベントや防災訓練、火災入会を通じてコミュニティを維持する。	第1小委員会 第1小委員会 第1小委員会 第1小委員会
		政策の方向性	区内滞在者に対する適切な防災情報の提供をはじめ、あらゆる人の安全を守る取組を進めます。	区民以外の区内滞在者にも、一時滞在施設の場合など発災時に必要な情報について、適切に提供する。 町会・商店街・学校・福祉・行政の連携を、地区ごとに見える形で整理する地域ラジオを核に、区民が日常的に地域情報を受け取れる仕組みをつくる 防災情報だけでなく、教育、防犯、環境、地域活動も横断して発信する 情報と関係性の両方が循環することで、災害時に強い地域を育てる	第1小委員会 第1小委員会 第1小委員会 第1小委員会
		目指す姿	犯罪や交通事故が少なく、誰もが安心して暮らせる安全・安心なまちが実現しています。	若年層の犯罪被害・加害が減少している	第1小委員会
		政策の方向性	犯罪発生の抑制と区民が犯罪に不安を感じない地域社会を形成するため、区民同士のつながりと地域におけるルールの共有を進め、地域全体の見守り機能を向上させます。	誰もが安心して自転車で移動できる 孤立や情報弱者を生まない地域が形成されている 隣人の近さとの、地域に根ざした情報へのつながりが、荒川区の防犯力・生活安全力になっている	第1小委員会 第1小委員会 第1小委員会
		政策の方向性	若者や高齢者など多様な人々の特性に応じた情報発信と相談体制を整備し、防犯に関する情報弱者を生まない地域づくりを推進します。	『知らないかった』『判断できなかった』を減らすため、情報弱者を生まない発信体制を整える。 高齢者には音声や地域とのつながりで、若者にはSNSや動画で伝えよう、伝え方を世代ごとに変える	第1小委員会 第1小委員会 第1小委員会
		政策の方向性	自転車や新たなモビリティの交通環境の整備と事故防止に向けた啓発を一体的に進め、歩行者も運転者も安全・安心に移動できる環境を整えます。	街中の死角を減らし、キックボードなど新たなモビリティも考慮したまちづくりを進める。 町会・商店街・学校・福祉・行政が連携した地域見守りネットワークを強化する	第1小委員会 第1小委員会

やすらぎ - 安全安心で快適に暮らせるまち -	都市基盤 - 誰もが住みやすい都市環境の確保 -	目指す姿	交通利便性が高く、にぎわいと防災性を兼ね備えた、快適で安全に暮らせる都市基盤が整ったまちが実現しています。	円滑な避難が可能であり、安全・安心かつ快適な道路環境が整備されている	第1小委員会
		政策の方向性	公共交通ネットワークの充実や新たな交通手法の活用など、子どもから高齢者まで移動しやすい都市環境を実現します。	交通利便性が賑わいが生れなりの移動できるまち」「災害リスクの高い地域や水害地域において、安全・安心な整備とソフト対策が講じられている	第1小委員会
				災害リスクの高い地域や水害地域において、安全・安心な整備とソフト対策が講じられている	第1小委員会
				住民ニーズに応じた公共交通政策を展開する。	第1小委員会
		政策の方向性	再開発に合わせて区域内に適切な機能を設けることや、バリアフリー導線を強化することにより、誰もが楽しめるにぎわいのあるまちの形成に取り組めます	高齢者や高密度居住地区においても地域公共交通が十分に整備されている。」歩行者・自転車・車・新しいモビリティが共存できる、安全でわかりやすい道路空間を整える	第1小委員会
自動運転の実用化も視野に入れ、対象を絞った対策や新たなモビリティサービス導入など、柔軟な対応をする	第1小委員会				
やすらぎ - 安全安心で快適に暮らせるまち -	住環境 - 安心して住み続けられる快適な住環境の整備 -	目指す姿	充実したコミュニティとともに、様々な人々が安心して快適に暮らすことのできる住環境が実現しています。	再開発の中には、住居だけでなく働く場所もつくる。」「空港や霞が関へのアクセスの良さを生かし、大企業本社を誘致する。	第1小委員会
		政策の方向性	様々な人々が地域で暮らし続けられるよう、住宅確保の支援とコミュニティへの参加を促す仕組みの充実に取り組みます。	駅、生活道路、商店街、公共施設をつなぐバリアフリー動線を強化する	第1小委員会
				道路基盤について、健康面への影響や文化的な価値を重視し、基盤整備の基準を柔軟に変えるなど、メリハリつけた整備を行う。	第1小委員会
				建物ストックの長寿命化を推進する。	第1小委員会
		政策の方向性	区民の高齢化とマンションの老朽化に対応するため、合意形成支援や改修・建替えの相談など、適切な支援を実施します。	防災機能を向上し、安心して暮らせる都市基盤を整備する	第1小委員会
やすらぎ - 安全安心で快適に暮らせるまち -	環境・清掃 - 環境にやさしいまちづくりの推進 -	目指す姿	区民や事業者が地球温暖化対策や資源循環に主体的に取り組む、環境にやさしい、持続可能なまちが実現しています。	コミュニティの希薄化	第1小委員会
		政策の方向性	区民や事業者がカーボンニュートラルの意義を理解し、再エネ利用や省エネ行動などの具体的な取組を進められるよう、支援と普及啓発を進めます	地域全体でコミュニティが形成されている 高齢者やその家族が安心して住み続けられる住まいが確保されているまち ウェルビーイング 人のつながりが住みやすさにつながり、荒川区らしい、支え合いのある住環境ができています。	第1小委員会 第1小委員会 第1小委員会
				高齢者やその家族が安心して住み続けられる住まいが確保されているまち コミュニティの希薄化 地域全体でコミュニティが形成されている	第1小委員会 第1小委員会 第1小委員会
				区民の高齢化とマンションの老朽化という二つの古い マンションの老朽化対策が進んでいる 老朽マンションの安全対策が進んでいるまち	第1小委員会 第1小委員会 第1小委員会
		政策の方向性	区民・事業者・区（行政）の密接な連携のもと、こみの削減や環境美化の推進など、区民一人ひとりが環境負荷の少ない暮らしを実践できるよう取り組めます	多様な世代の居場所が適材適所で確保されている あらゆる世代が集える場所 子どもの遊び場が適材適所に確保されている 公園の整備や、図書館の整備、コミュニティ施設の計画的な配置・整備を行う 人と自然、人と地域のつながりが深まり、荒川区らしい、やさしく心地よい環境が育っている	第1小委員会 第1小委員会 第1小委員会 第1小委員会
やすらぎ - 安全安心で快適に暮らせるまち -	環境・清掃 - 環境にやさしいまちづくりの推進 -	目指す姿	区民や事業者が地球温暖化対策や資源循環に主体的に取り組む、環境にやさしい、持続可能なまちが実現しています。	区民や企業が無理なく取り組める形で、カーボンニュートラルの意識と行動が定着している	第1小委員会
		政策の方向性	区民や事業者がカーボンニュートラルの意義を理解し、再エネ利用や省エネ行動などの具体的な取組を進められるよう、支援と普及啓発を進めます	自然が守られている 人と自然、人と地域のつながりが深まり、荒川区らしい、やさしく心地よい環境が育っている	第1小委員会 第1小委員会
				分かりにくいテーマについては、『人の暮らしやすさ』という観点から伝えていく	第1小委員会
				区民や企業が無理なく取り組める形で、カーボンニュートラルの意識と行動が定着している 区民一人ひとりの意識と行動に定着させる 公園、広場、街路空間を、使いたくなる・立ち寄りたくなる場として整える	第1小委員会 第1小委員会 第1小委員会
		政策の方向性	区民・事業者・区（行政）の密接な連携のもと、こみの削減や環境美化の推進など、区民一人ひとりが環境負荷の少ない暮らしを実践できるよう取り組めます	区民一人ひとりの意識と行動に定着させる。	第1小委員会
政策の方向性	資源循環型社会の実現に向け、サーキュラーエコノミー（循環経済）の推進など、区民や事業者が一体となった資源循環への支援と啓発を進めます	ごみを出しやすいようにする工夫も行う。	第1小委員会		
		住民への周知を図るために、区職員の説明とPR、司会との協力を喚起する。	第1小委員会		
		リチウムイオン電池の回収のルール等、国のルールを見ながら区民・行政・民間企業も対応していく。	第1小委員会		
				サーキュラーエコノミー	第1小委員会

審議会・小委員会での意見対応表（区政運営方針）

（参考１）

区政運営方針	種別	素案の記載内容	審議会・小委員会での意見、キーワード	意見の出典
区政運営の方針１ 柔軟で機動的かつ実効性の高い、持続可能な行財政運営の推進	方向性	複雑化・多様化する行政課題に対応するため、政策形成や事業見直し等の際に、合理的根拠に基づく政策を立案するＥＢＰＭ（Evidence-Based Policy Making：エビデンスに基づく政策立案）の考え方を導入します。	区の目指す姿と現状がわかりやすく示されている状態	第２小委員会
			区民が行政の必要性を理解し協力している	第１小委員会
			ＥＢＰＭをキーワードとして盛り込んでいただきたい	第１小委員会
			区民のＱＯＬの向上	第１小委員会
	方向性	今後の人口動向や社会動向を見据えた中長期的な行財政運営戦略に基づき、選択と集中による効果的な資源配分を行います。	健全な財政状況が保たれている状態	第１小委員会 第２小委員会
			持続的な財政運営がなされている	第２小委員会
	方向性	職員が働きがいを感じ、働き続けたいと思える職場環境を整備し、人材を確保します。	全ての職員がやりがいをもって働いている状態	第１小委員会 第２小委員会
			職員が常に業務の見直しや区民サービスの向上に努めている状態	第１小委員会
			質の高い職員が確保され、一人ひとりの職員のパフォーマンスが最大化されている	第１小委員会
			未来あるＡＩのまちあらかわ	第２小委員会
	方向性	業務の高度化・効率化、地域課題の解決に向け、ＡＩなどの先進技術を積極的に活用し、質と利便性の高い行政サービスの提供を行います。	区民視点で行政サービスが向上している状態	第２小委員会
			区民から見てサービスがよりよくなっている状態	第２小委員会
区政運営の方針２ シティプロモーションの推進	方向性	住む・働く・学ぶ・訪れる場所として荒川区が多くの方から選ばれるよう、地域資源を最大限に生かした戦略的なシティプロモーションにより、区の認知度やブランドイメージを向上させます。	宣伝力の向上	第１小委員会
			デジタルツールを使いながら、区民が身近に感じられるような取組	第１小委員会
			住民満足度の向上、住民体験価値の向上、居住体験価値の向上	第２小委員会
	方向性	荒川区での暮らしに愛着と誇りを持てるよう、区民に対しても区の魅力を積極的に発信していきます。	子ども・若者が行政運営に関わる仕組みづくり	第２小委員会
			文化・芸術・既存産業と新産業を体制にして、地域の魅力を維持するまち	第１小委員会
			若者の声が形になるまち	第２小委員会
区政運営の方針３ 各政策・施策の実現を加速化させる協働・共創の推進	方向性	区の強みである地域コミュニティを活かし、区民や町会等と様々な場面で協働し、ともに地域課題の解決に取り組んでいきます。	多様な議論の場づくり	第２小委員会
			行政に関わりたい人が、関わる行政	第２小委員会
			区民同士のつながりがある	第２小委員会
			地域全体でコミュニティが形成されている	第１小委員会
	方向性	大学や民間事業者、民間団体等の専門人材と積極的に連携し、様々な社会課題への対応体制を強化します。	行政・民間・区民のタテ・ヨコ・ナナメの支援	第２小委員会
			住民の理解・協力	第１小委員会
区政運営の方針４ 人権・平和・多様性の尊重	方向性	全ての人が差別を受けることなく、他者の人権を深く理解し、尊重し合う人権意識が広く行き渡ったまちを目指します。	守られ、保証されるまち	第２小委員会
			人と理解をしあう、知り合う	第２小委員会
			多文化共生	第２小委員会
	方向性	個性や違いを認め、理解しあい、共生できる寛容なまちを目指します。	相互理解の促進	第２小委員会
			人と理解をしあう、知り合う	第２小委員会
			伝統とダイバーシティをみんなで考えるまち	第２小委員会
			多文化共生	第２小委員会
	方向性	平和な社会の実現と、平和を願う心を次世代へつないでいきます。	外国人人口の増加をデメリットとして捉えない	第２回審議会
			-	-

荒川区人口推計報告書

本資料は、2026 年 1 月 1 日時点の人口データが公表されたことを踏まえ、小委員会でお示した人口推計の時点更新を行ったものです。

目 次

1 . 目的	1
2 . 推計結果	1
(1) 全区将来人口推計の推計結果	1
(2) 全区将来世帯推計の推計結果	5
3 . 推計手法	7
(1) 推計手法の概要	7
(2) 全区将来人口推計の推計手法	7
(3) 全区将来世帯推計の推計手法	9

1 . 目的

本書は、基本構想及び行政運営計画の策定に向けた基礎資料とすることを目的として実施した、荒川区の将来の人口及び世帯に関する推計の結果を取りまとめたものである。

2026年1月1日時点の人口データが公表されたことを踏まえ、人口推計の時点更新を行った。本資料は、時点更新後の推計結果を踏まえ、第1小委員会第1回（2026年3月12日開催）及び第2小委員会第2回（同年3月19日開催）にて配布された人口推計報告書を更新したものである。

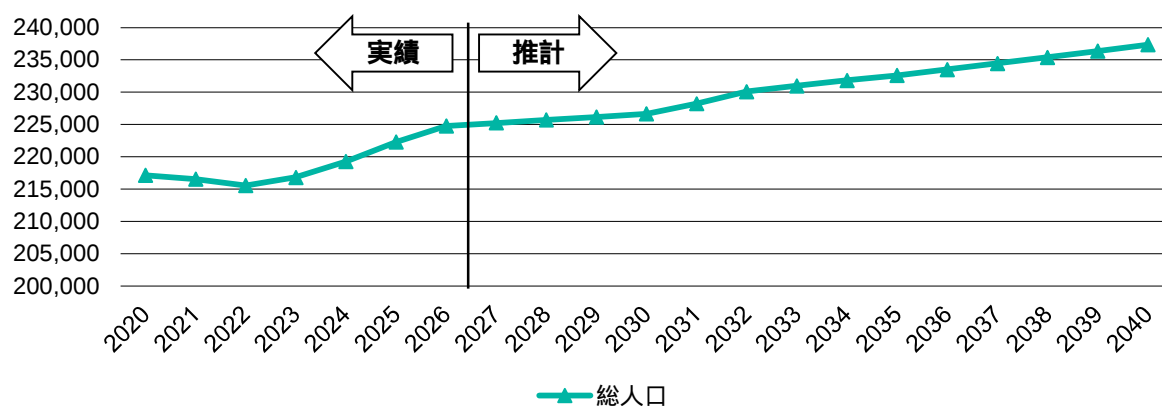
2 . 推計結果

（１）全区将来人口推計の推計結果

総人口

	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
総人口(人)	217,146	222,278	226,656	232,629	237,361

図表 1 総人口

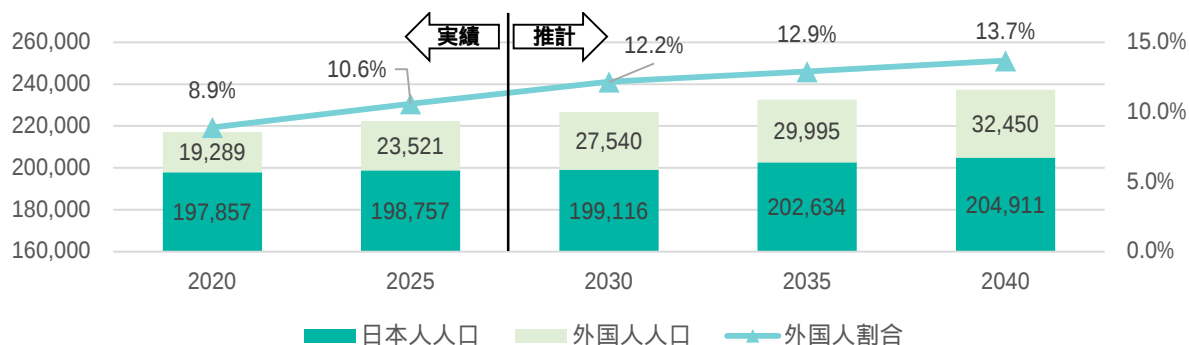


各年1月1日時点

国籍別人口

	2020 年	2025 年	2030 年	2035 年	2040 年
総人口(人)	217,146	222,278	226,656	232,629	237,361
日本人人口(人)	197,857	198,757	199,116	202,634	204,911
外国人人口(人)	19,289	23,521	27,540	29,995	32,450
外国人割合	8.9%	10.6%	12.2%	12.9%	13.7%

図表 2 国籍別人口

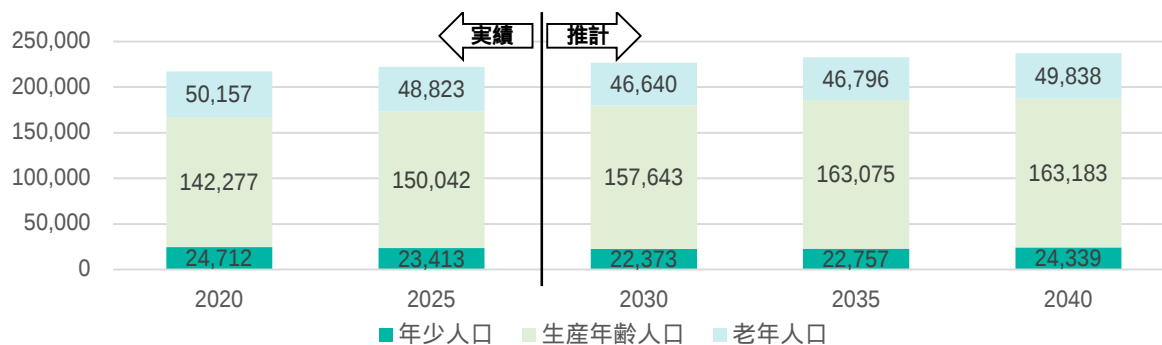


各年1月1日時点

年齢3区分別人口

	2020 年	2025 年	2030 年	2035 年	2040 年
総人口(人)	217,146	222,278	226,656	232,629	237,361
年少人口(人) ¹	24,712	23,413	22,373	22,757	24,339
生産年齢人口 ² (人)	142,277	150,042	157,643	163,075	163,183
老年人口(人) ³	50,157	48,823	46,640	46,796	49,838

図表 3 年齢3区分別人口



各年1月1日時点

¹ 15 歳未満の人口を指す。

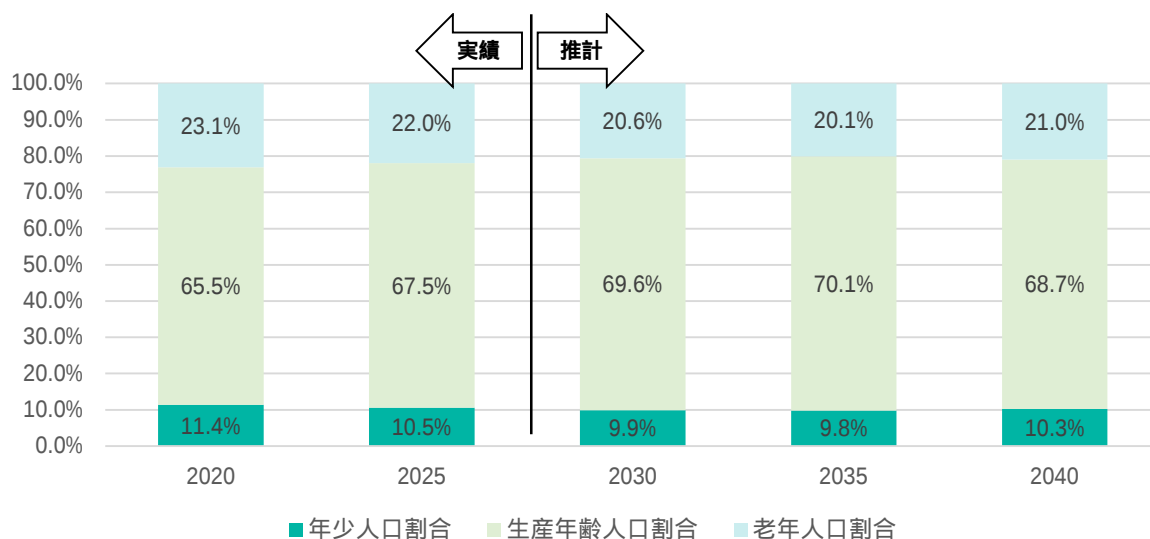
² 15 歳から 64 歳の人口を指す。

³ 65 歳以上の人口を指す。

年齢3区分別人口割合

	2020 年	2025 年	2030 年	2035 年	2040 年
年少人口	11.4%	10.5%	9.9%	9.8%	10.3%
生産年齢人口	65.5%	67.5%	69.6%	70.1%	68.7%
老年人口	23.1%	22.0%	20.6%	20.1%	21.0%

図表 4 年齢3区分別人口割合

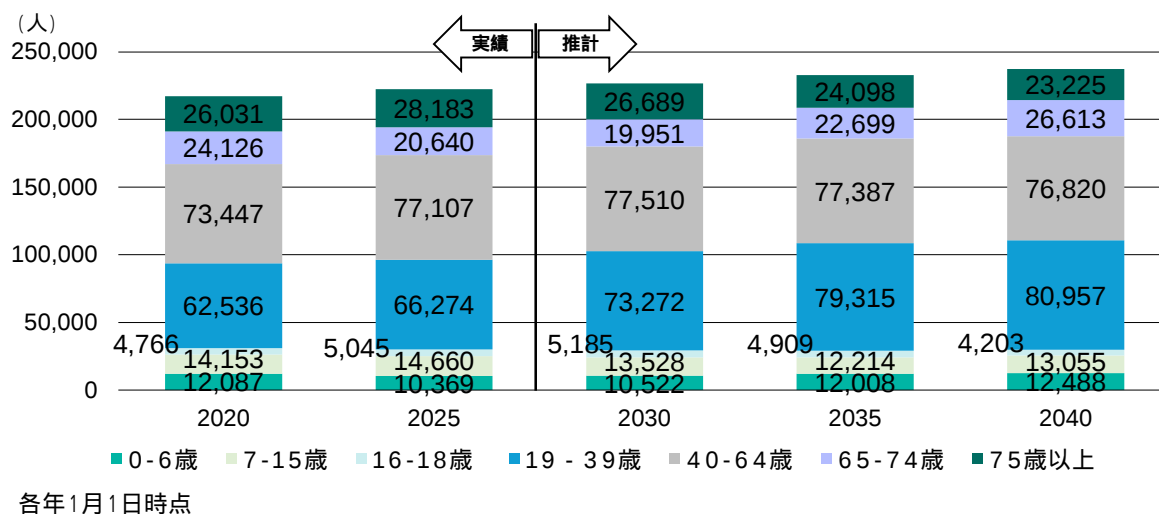


各年1月1日時点

教育・福祉等において用いられる区分に基づく年齢別人口

	2020 年	2025 年	2030 年	2035 年	2040 年
総人口(人)	217,146	222,278	226,656	232,629	237,361
0-6 歳(人)	12,087	10,369	10,522	12,008	12,488
7-15 歳(人)	14,153	14,660	13,528	12,214	13,055
16-18 歳(人)	4,766	5,045	5,185	4,909	4,203
19 - 39 歳(人)	62,536	66,274	73,272	79,315	80,957
40-64 歳(人)	73,447	77,107	77,510	77,387	76,820
65-74 歳(人)	24,126	20,640	19,951	22,699	26,613
75 歳以上(人)	26,031	28,183	26,689	24,098	23,225

図表 5 教育・福祉等において用いられる区分に基づく年齢別人口

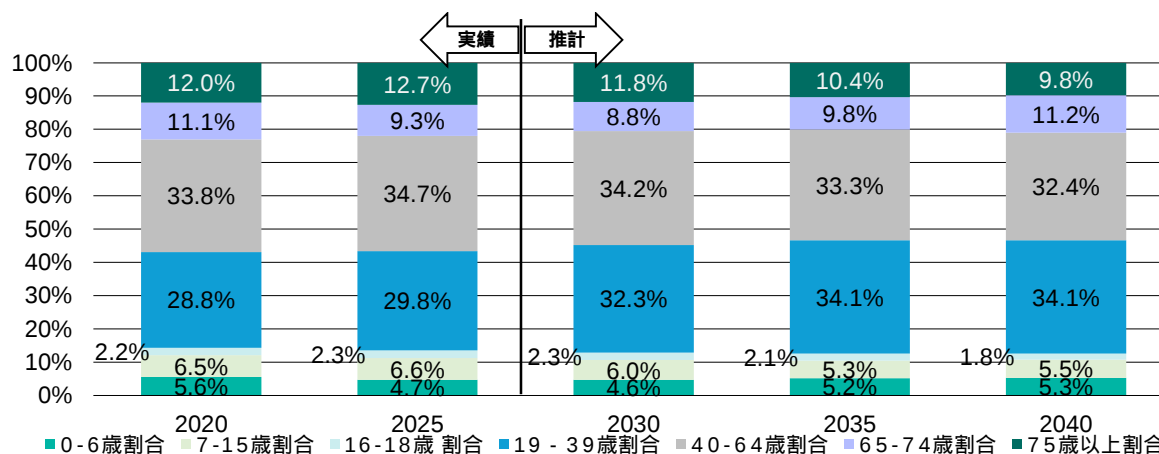


教育・福祉等において用いられる区分に基づく年齢別人口割合

	2020 年	2025 年	2030 年	2035 年	2040 年
0-6 歳	5.6%	4.7%	4.7%	5.1%	5.2%
7-15 歳	6.5%	6.6%	6.0%	5.3%	5.5%
16-18 歳	2.2%	2.3%	2.3%	2.1%	1.8%
19 - 39 歳	28.8%	29.8%	31.9%	33.7%	33.9%
40-64 歳	33.8%	34.7%	34.5%	33.5%	32.4%
65-74 歳	11.1%	9.3%	8.9%	9.9%	11.4%
75 歳以上	12.0%	12.7%	11.8%	10.4%	9.9%

四捨五入の関係で家族類型別の割合の合計が100.0%にならない場合がある。

図表 6 教育・福祉等において用いられる区分に基づく年齢別人口割合

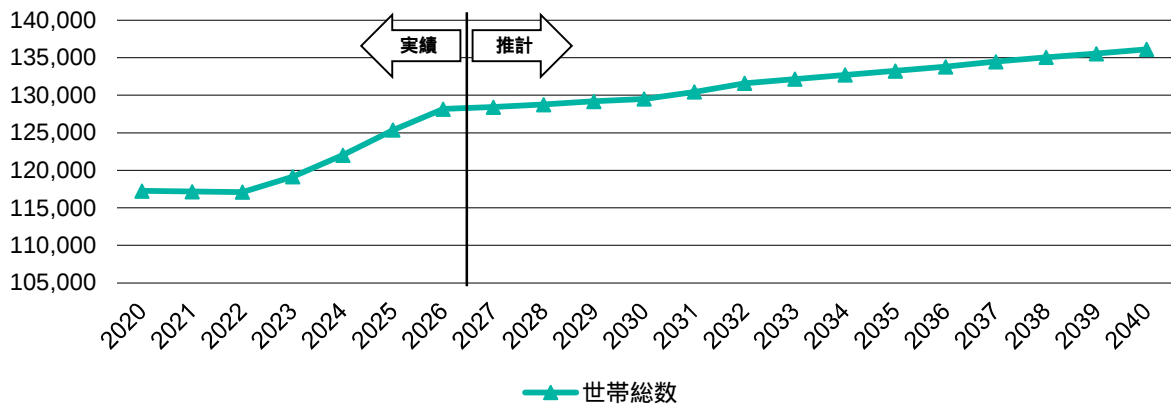


各年1月1日時点

(2) 全区将来世帯推計の推計結果

世帯総数					
	2020 年	2025 年	2030 年	2035 年	2040 年
世帯総数(世帯)	117,228	125,357	129,499	133,236	136,112

図表 7 世帯総数

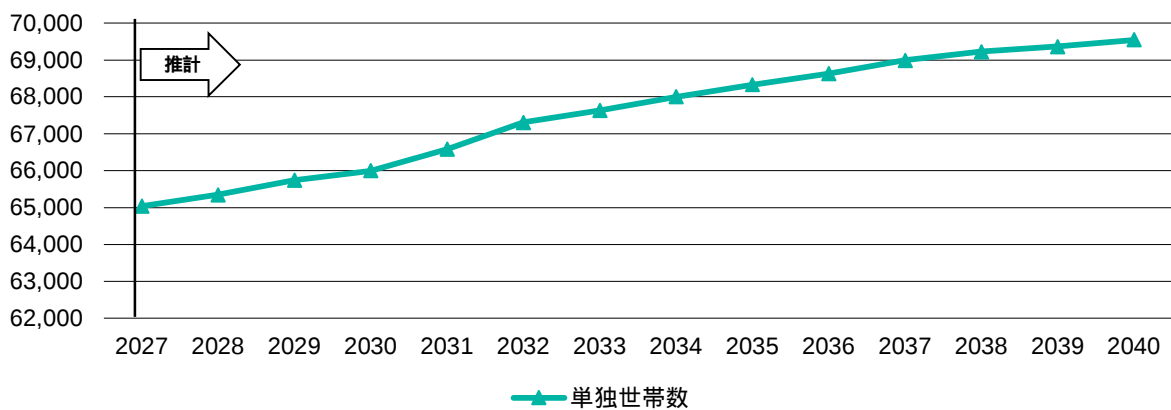


各年1月1日時点

単独世帯数				
	2027 年	2030 年	2035 年	2040 年
単独世帯数(世帯)	65,038	65,997	68,330	69,548

2026 年以前の実績値は存在しないため、2027 年以降の推計値を掲載。

図表 8 単独世帯数



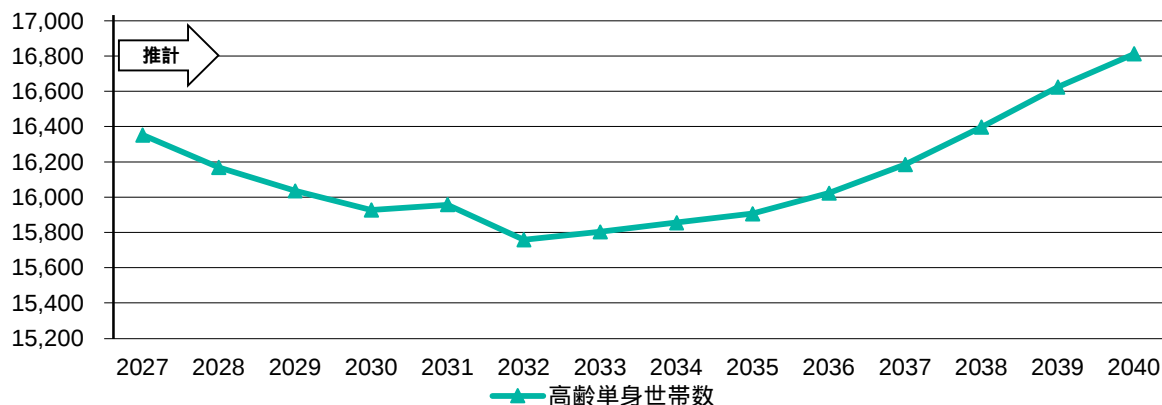
各年1月1日時点

高齢単身世帯数（65歳以上）

	2027 年	2030 年	2035 年	2040 年
高齢単身世帯数(世帯)	16,353	15,927	15,907	16,812

2026 年以前の実績値は存在しないため、2027 年以降の推計値を掲載。

図表 9 高齢単身世帯数(65 歳以上)



各年1月1日時点

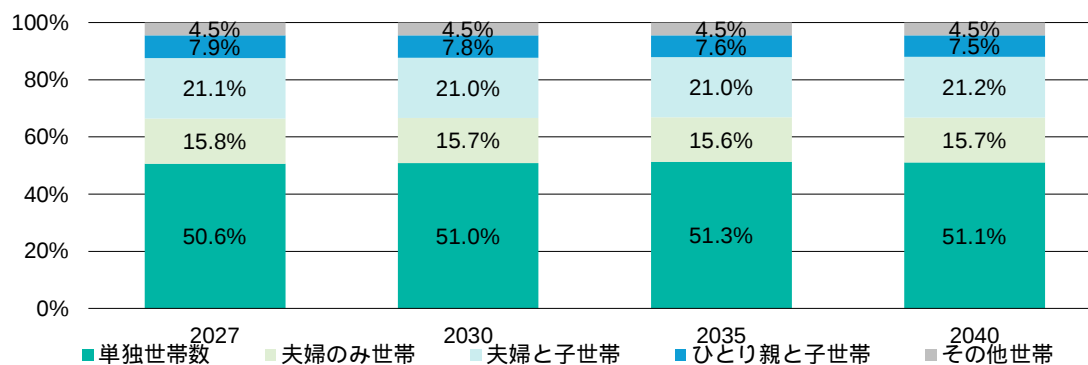
家族類型別の割合

	2026 年	2030 年	2035 年	2040 年
世帯総数	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
単独世帯数	50.6%	51.0%	51.3%	51.1%
夫婦のみ世帯	15.8%	15.7%	15.6%	15.7%
夫婦と子世帯	21.1%	21.0%	21.0%	21.2%
ひとり親と子世帯	7.9%	7.8%	7.6%	7.5%
その他世帯	4.5%	4.5%	4.5%	4.5%

2026 年以前の実績値は存在しないため、2027 年以降の推計値を掲載。

四捨五入の関係で家族類型別の割合の合計が 100.0%にならない場合がある。

図表 10 家族類型別の割合



各年1月1日時点

3 . 推計手法

(1) 推計手法の概要

本推計では、住民基本台帳を基準人口とし、男女・1歳・国籍（日本人・外国人）別に毎年 of 将来人口を推計した。さらに、令和2年国勢調査の世帯数を利用し、全区将来人口推計の結果を基礎として、荒川区全区の将来世帯数を推計した。

図表 11 推計の概要

	全区将来人口推計	全区将来世帯推計
人口データ	総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」	
世帯数データ		令和2年国勢調査
基準日	2026年1月1日	
推計周期	1年	
推計単位（性・年齢）	男女・1歳別	
推計単位（地理的区分）	荒川区全区	
推計期間	2027～2040年（各年1月1日時点の人口・世帯を推計）	
日本人推計手法	コーホート要因法 ⁴	日本人と外国人を一体として、世帯主率法により推計
外国人推計手法	趨勢回帰法 ⁵ ＋コーホート変化率法 ⁶	

(2) 全区将来人口推計の推計手法

本推計では、将来の日本人人口と外国人人口を異なる手法で推計し、日本人人口と外国人人口を足し合わせた値を、将来の荒川区の人口推計結果とした。

日本人人口

将来の日本人人口は、住民基本台帳人口を基準人口とし、男女・1歳別のコーホートに基づく、1年を1期としたコーホート要因法により推計した。

⁴ コーホート要因法とは、コーホート（分析の単位集団）毎に将来の出生・死亡・移動等の人口変動を仮定し、将来人口を推計する手法である。

⁵ 趨勢回帰法とは、過去の人口推移から回帰直線を推定し、将来人口を推計する手法である。

⁶ コーホート変化率法とは、コーホート（分析の単位集団）毎に、過去の人口推移から推計周期での人口増減率（変化率）を算出し、その変化率が将来も続くと仮定して、将来人口を推計する手法である。

図表 12 将来日本人人口の推計手法

推計に係る要素		本推計で採用した情報
人口データ		住民基本台帳人口
基準日		2026 年(令和 8 年)1 月 1 日時点
推計周期		1年
推計期間		2027 年～2040 年
推計手法		コーホート要因法
コーホート		男女別・1歳別
パラメータ	子ども女性比 ⁷	過去 10 年間の平均値。
	生残率	国立社会保障・人口問題研究所(以下、「社人研」)「日本の地域別将来推計人口 令和 5(2023)年推計 都道府県・市区町村の将来の生残率」を単年度あたりに変換。
	社会移動率	過去 5 年の移動率の平均値を算出。
開発インパクト ⁸		2029 年 12 月竣工予定の開発(予定戸数 749 戸、うちシニア住宅 80 戸)と 2031 年 3 月竣工予定の開発(予定戸数 979 戸)を加味。

外国人人口

将来の荒川区の外国人人口は、過去 10 年間の外国人人口の増加を、将来にわたって線形に投影して推計した。また、外国人の性年齢別の人口は、男女別 1 歳別コーホート変化率法を用いて算出した将来外国人人口の性年齢別割合を、推計した外国人人口に乗じることで算出した。

図表 13 将来外国人人口の推計手法

推計に係る要素		本推計で採用した情報
人口データ		住民基本台帳人口
基準日		2026 年(令和 8 年)1 月 1 日時点
推計周期		1年
推計期間		2027 年～2040 年
推計手法		外国人人口:線形回帰・予測 性年齢別割合:コーホート変化率法(コーホートは男女別1歳別)

総人口

日本人人口と外国人人口を足し合わせた値を、将来の荒川区の人口推計結果とした。

⁷ 20-44 歳女性人口に対する 0 歳人口の比。希望出生率から子ども女性比を算出する際には、2015 年から 2023 年までの荒川区の合計特殊出生率と子ども女性比の比率を希望出生率に乗じた。

⁸ 本分析において開発インパクトとは、マンションの建設等により新たな住居が大規模に供給されることによる人口増加への影響のことを指す。

(3) 全区将来世帯推計の推計手法

本推計では、令和 2 年国勢調査の性・年齢別人口及び性・年齢・家族類型別の世帯主数から算出した区の世帯主率を用いて、区の将来の世帯類型別世帯数及び世帯総数を推計した。また、世帯総数は各世帯類型の合計値とした。

なお、算出に際して用いた世帯類型は以下の 5 類型である。

- 単独世帯
- 夫婦のみの世帯
- 夫婦と子から成る世帯
- ひとり親と子から成る世帯
- その他の世帯

図表 14 全区将来世帯推計の推計手法

推計に係る要素	本推計で採用した情報
人口データ	住民基本台帳人口
基準日	2026 年(令和 8 年)1 月 1 日時点
推計周期	1年
推計期間	2027 年～2040 年
推計手法	将来人口推計結果に世帯主率を乗じて算出